

短期 語学研修

高校生の休み期間を利用した

7月・8月・3月に開催

留学前に、ニュージーランドで一気に「英語力」を伸ばす人気のアカデミック・ツアー

英語上達必須の旅

研修参加時、英語力は問いません。
受講生の英語レベルに合わせたクラス分けが行われます。

ご相談・お問合せは

TEL **03-6202-0606**



IPC
TERTIARY
INSTITUTE
NEW ZEALAND



インターナショナル・パシフィック大学日本事務局

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 ダイア八重洲口ビルB1F
電話 03-6202-0606 Eメール info@ipc.ac.nz
<http://www.ipc-nz.ac.jp>

IPC TERTIARY INSTITUTE, NEW ZEALAND

GET A HEAD START ON YOUR FUTURE

IPC NEW ZEALAND
インターナショナル・パシフィック大学
UNDERGRADUATE AND POSTGRADUATE PROSPECTUS

Established in 1990 in Palmerston North, widely known as the 'Knowledge City', New Zealand, IPC Tertiary Institute received an evaluation as 'Highly Confident in educational performance' from New Zealand Qualifications Authority in 2011. The quality of IPC's educational programmes as well as its academic, pastoral, guidance support for students was highly regarded.

IPC Tertiary Institute focuses upon international education at undergraduate and postgraduate levels. Students from more than twenty different countries are living and learning together. As English is used as the common language and medium of teaching/learning, IPC provides excellent English-learning programmes and support for those who are non-native speakers of English.

IPC TERTIARY INSTITUTE

57 Aokautere Drive, Fitzherbert, Palmerston North 4410, New Zealand

Telephone: +64 6 354 0922 Facsimile: +64 6 354 0935

Email: info@ipc.ac.nz



IPC TERTIARY INSTITUTE NEW ZEALAND



1987年、「環太平洋大学構想」が誕生。
環太平洋圏を代表する教育者と識者がホノルルに集まり、国際教育会議で「ニュージーランド初の私立全寮制国際大学」を設立する案が発表され、ニュージーランド政府・国会での議論の末、教育改革の一環として、ニュージーランド初の私立大学の設立が承認されました。
そして、1990年には「知識の街」と知られるパーマストンノース市に、日本人が開学した大学としては初となる国際大学「IPC」が誕生。
現在は、英語圏の学生、そして、英語を母語としない留学生を「成功に導く大学」へと成長し、世界20か国以上の学生たちがキャンパスに集結。ビジネスの専門知識や語学・教養を学んでいます。

CONTENTS

3	Foreword
4	About IPC
6	VI reasons to study at IPC
8	NZQA

The Programmes

10	Academic Programmes
12	Foundation Programme
16	International Business
18	International Relations
19	Environmental Studies
20	Language Studies / TESOL
22	Business Communication
23	Tourism
24	Environmental Studies
26	Dedicated Educators
28	Postgraduate Studies
30	Internship Programme
32	Career Services

About New Zealand

34	New Zealand
36	Palmerston North

The Campus Life

42	IPC Campus
44	Campus Life
46	Halls of Residence
48	Dining Hall
50	Student Support
51	Support Services
52	Homestay

54	Graduates at Work
55	Students' Voice

Support for Parents

56	Support for Parents
----	---------------------

IPU

60	About IPU
----	-----------

How to Apply

62	Enrolment Guide
66	Contact Details

67	Application Form
----	------------------

学長挨拶

世界の片隅で起こる「誰かの問題」を「我々の問題」として捉えることが求められているグローバル社会において、IPCの学生は、政治、経済、ビジネスなどの多様な分野を統合的に学び、卒業後には、一流企業や政府関連団体、NGO（非政府組織）をはじめ、観光、国際関係、文化、教育等、さまざまな分野で活躍しています。
NZQA（ニュージーランド政府教育資格審査局）の監督のもと、高い教育水準を誇り、国策としては、環境保護を強く推し進めるニュージーランド。紛争地域から遠く離れた安全な国として、ニュージーランドの国際大学IPCには、世界各国から大勢の学生が集います。
ニュージーランドについての知識を深め、この国に集まる人々の多様な文化を知り、英語力と国際的な教養を高めれば、グローバル人材として活躍するための大きな自信となることでしょう。あなた自身の将来において、どのように社会に関わり合えるかをIPCで是非見つけてください。世界で活躍するというあなたの目標をIPCは全力でサポートし、しっかりと皆さんを導いていきます。

学長 ウェイン・エドワーズ





「知」と「教養」を世界水準に

「本物志向」の学生のための学部

現代国際学部 p.16-21

Bachelor of Contemporary International Studies

英語基礎課程

*入学時英語力問わず



現代国際学部

*世界で通用する学士号取得

日本国内の国際教育だけでは不十分です。

日本の少子化が引き起こす大学全入時代に、「国際」を売り文句にした日本の大学が後を絶たない今、真の国際教育とはいったい何なのでしょう。そもそも、日本国内で行う国際教育だけで十分なのでしょうか。英語環境に身を置き、世界各国から集まる留学生と机を並べ学ぶからこそ、異なる文化背景や価値観から国際感覚が研ぎ澄まされ、それをベースに現代社会に必要とされる「知」や「教養」を学び得ることができるのではないのでしょうか。IPCでは、英語教育で世界から遅れをとっている日本の現状を踏まえ、初年度の英語基礎課程（入学時英語力問わず）での1年間で生きた英語力を養い、続く2年次からの現代国際学部では、国際社会で必要とされる「知」と「教養」そして「経験」を得て、世界を舞台に活躍できる人財を育成する計4年間のプログラムが用意されています。

海外大学へ進学するという選択

Choose IPC, Choose The World.

学生の夢を叶えるのが私たちの使命です。

「利害関係を超えた世界各国の友人をつくること」「世界の舞台で活躍すること」。

世界を知ること、これからの豊かな人生をデザインしていく。

主役となる世界各国から集まる留学生一人ひとりの夢を実現させるために

世界で通用する教育を伝えること。それが、私たちの使命です。

この留学は人生を大きく変える4年間です。





VI REASONS TO STUDY AT IPC

- Highly effective English skill development programmes
- Cross-cultural communication skills developed in a multi-cultural environment
- Small student-to-teacher ratios enhancing intensive and effective learning
- Internship opportunities for real, hands-on business experience
- Career support programmes available both in NZ and Japan
- Career pathways to promising industries



IPCが選ばれる6つの理由



高度な英語力

4年間の一貫教育がユニークなIPCの英語教育。1年次の英語基礎課程と2年次以降のイングリッシュスキルズ学習（専門課程と並行して履修）を行っているため、確実に高度なレベルの英語力をつけることが可能です。「聴く」「話す」力だけでなく、「書く」「議論する」等、実践に応用できるスキルとして、英語を身につけていきます。

異文化コミュニケーション力

語学力は重要ですが、それ以上に多文化環境の中でもスムーズにコミュニケーションを行うことができる人材が現在のグローバル社会では求められています。IPCではクラスだけでなく、キャンパスライフを通じてさまざまな国からの留学生と交流し、切磋琢磨しながら、国際センスを磨いていきます。

実践力を養う少人数クラス

IPCの卒業生が口を揃えて語るのが「IPCで何度も行ったプレゼンテーションやディスカッションが、役に立っています」。教授が学生一人ひとりと対話をしながら進める少人数クラスで、プレゼンテーションやディスカッションを繰り返し行うことにより、苦手意識を克服し、社会人としてすぐに使えるスキルへと変えていきます。



インターンシップで実地体験

授業で学んだ知識やスキルは、実際に社会と関わり合いを持つことで初めて発揮させるもの。IPCでは在学するすべての学生にインターンシップを推奨しています。70社以上の提携先から、自分の興味や専攻に合った研修先を見つけ、英語を駆使しながら、グローバル人材になるための経験を積んでいきます。

安心の「就職活動」

就職活動には、しっかりとした事前準備が必要。業界・企業研究、自己分析、エントリーを済ませて、日本での就職活動が始まります。IPCに在学する日本人学生にはニュージーランド現地と日本の2か国でのキャリア支援を実施。留学生に日本の大学生と同じ条件で就職活動ができるよう、最大限の支援をしています。

「これからの企業」に強いIPC

伝統的な大企業が伸び悩んでいる中、成長を続けている企業もたくさんあり、優良なグローバル人材には活躍のチャンスが多くあるというのが現状です。英語、異文化コミュニケーション力、プレゼンテーション力、そして望めば他諸国の言語も学べるIPCの環境。IPCの卒業生の多くが、成長が著しい国際的な企業で活躍しています。

NZQA

NEW ZEALAND QUALIFICATIONS AUTHORITY
RECOGNISED IPC AS “HIGHLY CONFIDENT”

From left to right

Professor Wayne L. Edwards, OBE
President

Miss Coralie Chautard
Bachelor of International Studies
New Caledonia

Mr Hiroshi Ohashi, MNZM
CEO/Chairman of the Board

政府教育審査機関が最高評価

2011年度、IPCは「ニュージーランド政府教育資格審査局（NZQA）」から
“Highly Confident（自信を持って高く評価する）”の最高評価を受けました（4段階評価）。
NZQAは、ニュージーランド国内のすべての教育機関が一定レベルの教育活動を行っている
かを監査し、各機関の教育内容を評価するとともに、改善のための提言を行う政府機関です。

実績

英語力の向上に高い評価

在学生、および過去の在学生在が、学習において一貫して高いレベルの成功を修めていること、学生自身が学習成果に満足していること、そして初年度の英語基礎課程で英語力を向上させていることを高く評価する。

卒業

高水準の卒業率

卒業率がニュージーランド国内の平均となる71%を高く上回っていること、次年度の履修率も83%と高水準であり、これも国内平均の66%を大幅に上回っていること。14%の卒業生が大学院等、次のレベルへの進学を実現している。

教育

学生のための教育環境が最適

IPCの教授陣は在学生を効果的に指導し、レベルに応じた適切なアカデミック上の課題を与えている。そして、学生がよく学び学業を達成するように意識づけている。また、学生と教職員の比率が最適である。

支援

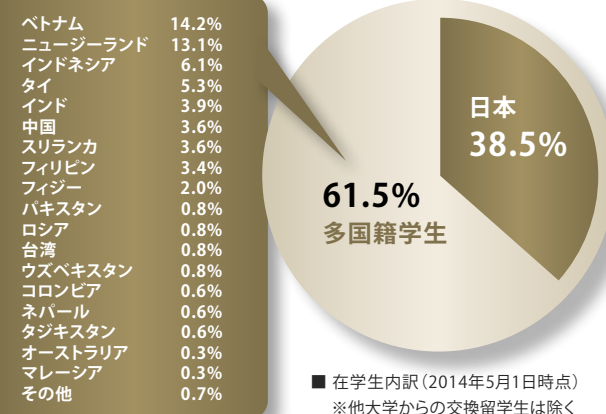
学生への支援やアドバイスが適切

学習資料や研究資料が充実しており、学業面や生活面でもスタッフからのサポートが容易に得られることに学生が満足している。個人の出席状況や成績をよく管理しており、学生が健康によく学ぶことができるように丁寧に指導している。

IPCの教育プログラム

国際人を目指す学生のための学習環境

今、さまざまな視点で物事を捉え、クリエイティブに問題を解決できる人材が求められています。国際大学IPCで取得できる資格は、修士号から学士号、そして専門ディプロマまでさまざま。英語力にとどまらない国際人としてのコミュニケーション力、知識だけでなく実践力を、ビジネス、国際関係学、環境学、言語学、観光学等の分野で身に付け、社会人になるときに発揮して下さい。また、IPCは中国、ロシア、ブラジル、インドネシア、台湾、日本、ベトナム、タイ、ウズベキスタン、タジキスタンの計10か国の高等教育機関と提携関係にあり、各教育機関との連携を進め、グローバル時代に輝ける人材の育成と高い教育成果を使命とし、歩み続けています。



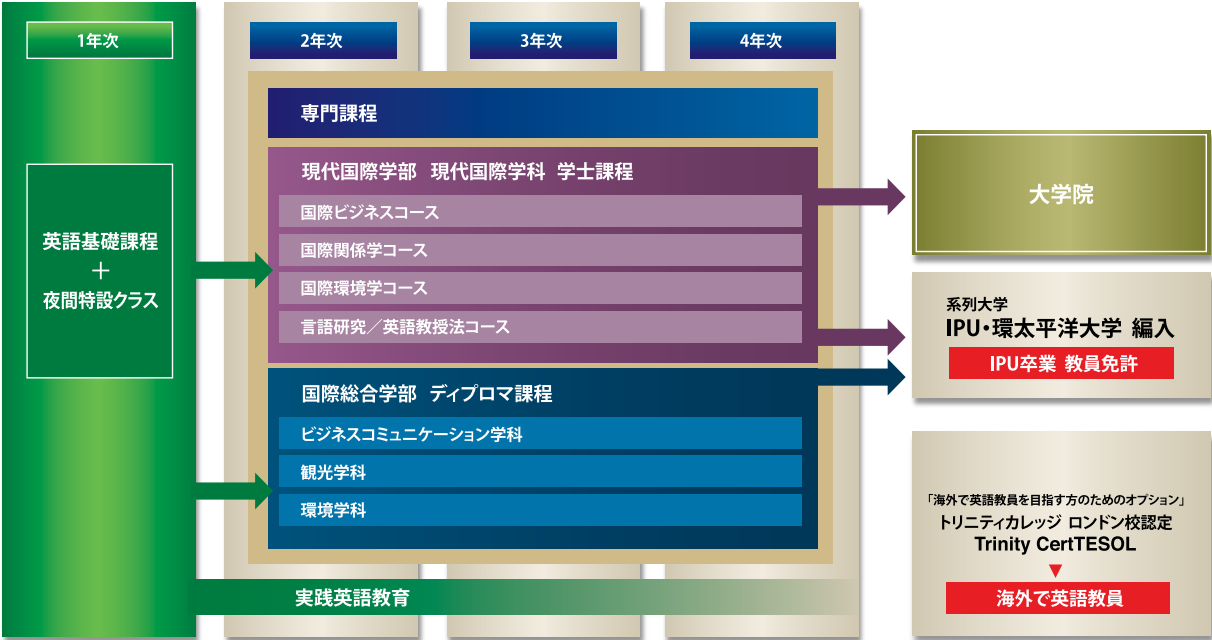
英語を母語としない学生へ

『英語基礎教育』から『実践英語教育』まで

IPCはニュージーランドの大学であるとともに、環太平洋圏をはじめとする世界各国からの留学生のために設立された国際大学です。世界20か国以上から集まる学生にとって、「異文化コミュニケーション力」の習得がとくに重要となります。実践力を養う少人数クラス制（最大20～25名程度）で高度な英語力を身につけられる環境は国際大学であるIPCならではの。初年度の英語基礎課程ではしっかりとした英語力を磨くとともに、4年次まで専門課程と並行して行われる実践英語教育（イングリッシュスキルズ学習）で、他の大学では例を見ない、著しい英語力の向上が見込めます。



ACADEMIC PROGRAMMES



学士課程は英語基礎課程を含まない3年制プログラムであり、入学時に所定の英語力があれば、3年間で学士号を取得することが可能です。ディプロマ課程は初年度の英語基礎課程を含む4年制プログラムとなります。一般企業への就職時には、学士課程・ディプロマ課程とも日本の大学卒業資格と同様に扱われています。

世界で活躍するために

国際社会を生き抜く力を養う『学際研究』

国際化の進展に伴い、1つの分野のみに集中して研究すればよいという時代でなくなってきた現在、物事を多角的に理解し、総合的な観点から問題解決のできる人材が求められています。少人数制の中で育まれる「コミュニケーション力」「実践英語力」「発言力」「プレゼンテーション力」「交渉力」「問題解決力」「リーダーシップ」などのスキルは、専門課程の履修と合わせて卒業時に大きな力となります。

2年次以降の専門課程の履修においては、従来の学問における専門分野に縛られず、複数の分野をまたがって研究することが求められます。世界経済は政治とビジネスを軸に変動しており、IPCでは、諸問題を国際ビジネス、国際関係、環境問題の観点から検討します。さらに、グローバル世界の共通語としての英語も必須となります。次世代のリーダーを育成するため、以上の分野を総合的、そして実践的に学び、「狭い範囲のスペシャリスト」ではなく、「幅広い基盤と対応力を持つ人材」を育てます。大学に在籍しながら、企業で実務研修を行うインターンシップを通じ、在学生は大きな自信を身につけることもできます。語学力を磨くだけでなく、専門知識をさらに深め、社会人への一歩を踏み出します。





FOUNDATION PROGRAMME

英語基礎課程

ファウンデーション・プログラム

大学付属の英語教育でまずは海外圏で生きる力を

日本人が中高6年間で英語に触れるのは約1000時間。IPCでは初年度だけで1200時間の英語学習を行うだけでなく、日常生活においても毎日英語に触れ、英語を苦手と感じていた学生のコミュニケーション力を一気に育成します。また、英語力を定期的に確認するためにTOEICテストで学期ごとに英語力の伸びを知ることができます。英語を母語としない者として十分なコミュニケーションができると評価される860点以上、さらには900点以上を卒業までに達成することを目標に、英語力を伸ばしていきます。



講師との距離が近い『少人数制クラス』

英語基礎課程の講師陣の役割は、英語を「教える」だけではありません。英語を「好きになってもらう」「楽しんでもらう」ことによって、必然的に英語力が身に付くようなクラス環境をつくっています。「TOEICスコアを伸ばしたい」「スピーキング力をつけたい」「語彙を増やしたい」等、学生の目標を把握し、その達成のためのサポートと指導を行います。



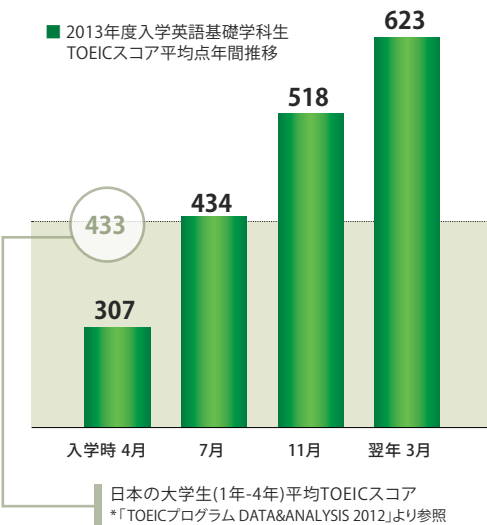
『出席率』の徹底管理

留学の基本はクラスに出席すること。人前で英語を話すのは日常茶飯事。ほとんどの学生が最初は人前で話すことのミスを恐れますが、クラスでは、「話さなければならない」状況が多くあります。徹底した出席管理で、確実に英語の実力をつけるよう、学生サポート課と連携した学生指導も行われています。



教室の場にとどまらない英語教育

ニュージーランド人学生や、多国籍学生との交流、地元コミュニティでのクラブやボランティア活動、アルバイト、ホームステイなど、学生を取り巻くすべての環境が英語学習に役立ちます。課外授業では地元小学校への訪問やニュージーランド文化を学ぶことができ、満天の星空の下で行うキャンプは、留学生同士の親睦を深める最高の機会となります。



4技能の徹底

SPEAKING SKILL ◎スピーキング力

英語で意思を伝える力を鍛える

効果的なアウトプットを行うには、インプットの質と量が大切です。日本語から英語へ置き換えて理解していくよりも、英語を英語で理解することで、まずは基礎となる語彙力と文法力を徹底的に身につけて下さい。日々の対話形式の授業を通じて教員から指導を受けながら、英語での表現力を少しずつ習得していきます。

LISTENING SKILL ◎リスニング力

ビジネスに耐えうるリスニング力を自然に習得

他人の考えや意見を正確に聞き取ることは、大切なプロセスです。ネイティブスピーカーの英語はもちろん、アジア圏を中心とする非英語圏出身者の英語にも同級生たちを通じて日常的に接することで、ビジネスシーンに耐えうる極めて実践的なリスニング力が身につきます。国際人としての基礎的な聞き取り力が、キャンパスでの生活を通じて自然に身につくでしょう。

英語が「話せる」ではなく、英語で「何ができるか」。すべての学生にとって、英語は最終目標でなく、コミュニケーションのためのツールです。IPCの英語基礎課程ではまず、英語力を上げるための土台づくりから始めます。徹底した「スピーキング力」「ライティング力」「リスニング力」「リーディング力」の4技能を総合的に習得してもらうために、各学生のレベルに合わせた指導と育成が行われます。

WRITING SKILL ◎ライティング力

建設的に文章で伝える力を養う

「話し言葉」と「書き言葉」は似て非なるものです。入学当初は担当講師との英文日記から少しずつ始めて、英文作成力を身につけていきます。作文、ビジネス文書、英文メールの書き方など、語彙と文法力を強化しながら、何をどう書けば建設的に伝えられるかを、じっくりと時間をかけながら学んでいきます。

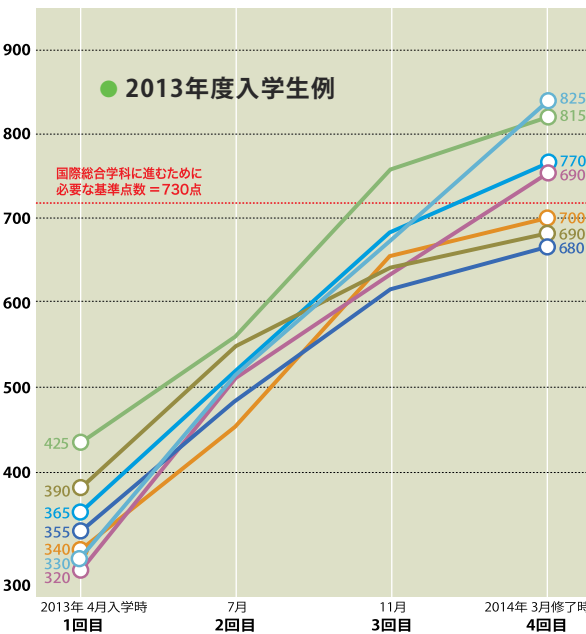
READING SKILL ◎リーディング力

文章理解で論理的な力を身につける

図書館内にある3万冊の蔵書は、各専攻に必要な必須書籍を中心に揃えられており、図書館情報学修士号を持つ図書館長を中心としたチームが管理にあたるとともに、定期的な見直しを行っています。また、英語基礎課程の在学生には、それぞれの英語力に応じた語彙のみを用いた書籍を用意しており、無理のない読解力の向上が期待されます。

TOEICで英語力の伸びを見る

IPCでは、英語テスト「TOEIC(トイーック)」を学内で実施し、英語力の伸びを測るため、その受験を義務付けています(英語基礎課程では入学直後と各学期末の年間計4回。専門課程は年1回)。テストは聴き取り力(リスニング)と読解力(リーディング)の2部門からなり、その結果は、基礎的な英語力を測る上での目安となるほか、専門課程へ進むための英語力があるかどうかを見るためにも使われます。在學生は皆、テスト結果からそれぞれの課題を見つけ、同級生に負けないように日々、努力を積み重ねています。2013年度入学の英語基礎課程生の記録を分析したところ、入学1年後のスコアアップは平均316点にも上りました。習熟度別の少人数制クラスでの授業と学生たち自身の努力が実を結んだ結果と言えます。さらに、TOEICでは測ることのできない会話力(スピーキング)と作文力(ライティング)は、独自の学内テストでその伸びを見ます。





論理的思考を強化する 『大学付属の語学プログラム』

英語基礎課程（ファウンデーション・プログラム）では、入学時の英語力は問いません。初回の英語学内テストの結果に応じ、それぞれの英語力に合わせたクラスに振り分けられます。日本での教授経験を持ち、日本の教育事情に通じた教員も多いため、日本人留学生に対しては特に、日本の中学と高校で学んだ基礎知識を上手に引き出す指導が可能です。次年度の専門課程に進むための準備期間として英語基礎課程に属し、学術的に論理的思考を系統立てながら育成します。

1 学期 4～7月

アクティビティなどで伸ばす実践英語

基礎的な語彙を増やしたり、英語の聴き取りに集中します。街に出たり、アクティビティの中で積極的な会話を心掛けたりと、実践的に使う語彙力を特に伸ばします。同時に、自律学習のためのさまざまな方法を学ぶ期間でもあります。

2 学期 8～11月

国際キャンパスで『聞く力』が自信に

2年次の専門課程を見据えた英語力の向上に重きが置かれます。エッセイの書き方に慣れ、図書館の利用も多くなるでしょう。聴き取り力が特に上がるのもこの頃で、他国の学生たちとのコミュニケーションも円滑になるはずです。

3 学期 1～3月

論理的に英語で伝える技術を学ぶ

論文の作成方法、ノートの取り方など、専門課程に入るための具体的な準備を行います。効果的なプレゼンテーション（口頭発表）の方法、論文の書き方などを習得します。希望の専門課程に入れるよう、1年の締めくくりとして、英語試験「TOEIC」での高得点を目指します。

EXTRA NIGHT CLASSES

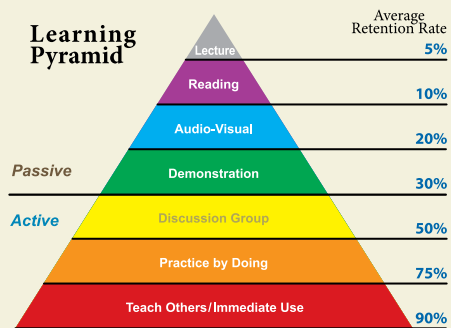
英語力を底上げする『夜間特設クラス』

夜間特設クラスで『英語漬け』

IPCでは、留学初年度の日本人学生（英語基礎課程）を主な対象とした夜間特別講習を開講しています。中でも特にユニークなのが、日本人教職員のみならず、先輩の日本人学生も先生役となって後輩を指導する学生同士のチューターリングシステムです。

先輩が後輩を 英語指導するのはなぜ？

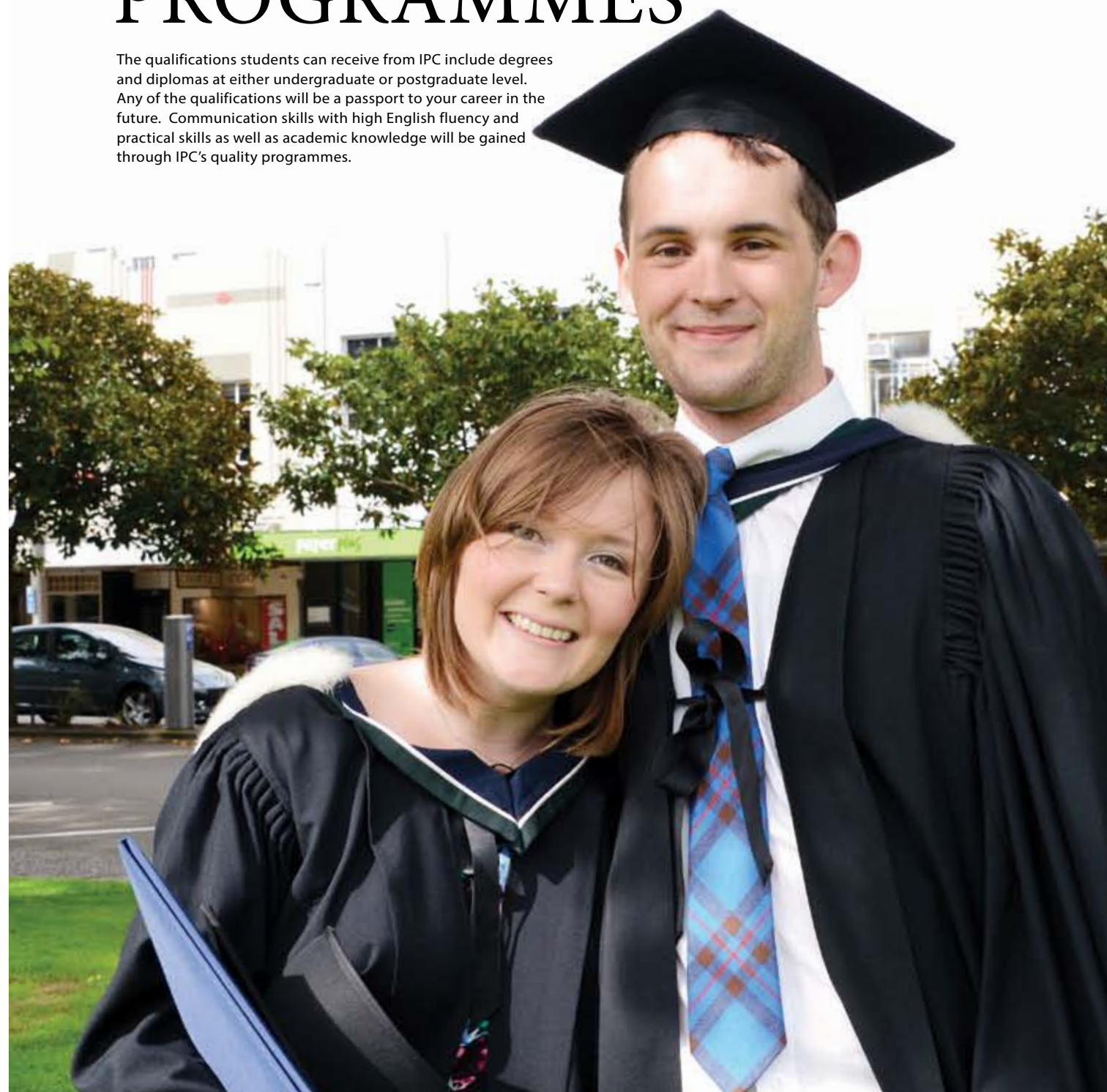
「教える側」には、将来にグローバルリーダーや英語教員を目指す学生など、積極性の高い模範生が名乗りを上げています。こうした学生は後輩への指導を通じ、教えることの難しさを理解していくと同時に、日中は学生として出席する通常授業への参加姿勢がさらに能動的となっていきます。逆に「教えられる側」は、英語力向上の面で同じ道をたどったであろう上級生から勉強面で学ぶだけでなく、留学生生活を有意義に過ごすノウハウも学び取っています。「教える側」と「教えられる側」が互いに刺激を受け合うチューターリングシステム。これにより、IPCでの留学生活で主役となる学生同士がともに成長していく上での相乗効果が期待されます。



学習定着率を示す図表 (Learning Pyramid)
学習定着率は最下部である「Teach Others/Immediate Use」が最も効果的。チューターリングシステムは、学生同士が教え合うことで英語力が向上する理想的なシステムといえる。

A CADEMIC PROGRAMMES

The qualifications students can receive from IPC include degrees and diplomas at either undergraduate or postgraduate level. Any of the qualifications will be a passport to your career in the future. Communication skills with high English fluency and practical skills as well as academic knowledge will be gained through IPC's quality programmes.



INTERNATIONAL BUSINESS

現代国際学科 国際ビジネスコース

進路	CAREER OPPORTUNITIES
会計	Accounting
ファイナンス	Finance
国際ビジネス	International Business
マネジメント	Management
マーケティング	Marketing

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5





ラシード・アミーア博士

英セントラルイングランド・バーミンガム大（現バーミンガム・シティ大）で経営学修士号、英アストン大で財政学博士号。学部課程で「経済学原論」「多国籍企業経営論」「国際ビジネス・インターンシップ（企業研修）」などを担当。大学院でも「ビジネスと環境―企業の社会的責任」を講義している。

『国際ビジネスで成功する』ための専門コース

国際ビジネスは単に財政学や会計学の観点だけでは成功することはできません。ビジネスの全体像をよく把握できるのがIPCの国際ビジネスコース。学生は狭い範囲でなく幅広い多彩なスキルを身につけ、母国でのビジネスの諸問題についてどう対処できるかを考えられるようになります。国際ビジネスに大きく影響する政治、国際法、環境問題、言語、文化の分野から学び、プレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、「決断力」と「分析的思考力」を養います。



様々な文化背景から学ぶビジネス

担当教員との距離に近い少人数制クラスは、どんな質問も気軽にでき、学生が学びやすい環境であるとともに、異なる文化背景を持つ学生が集まっています。これらは、多文化を深く理解しやすくとともに、日々の授業の中で高いコミュニケーションを身につけることができます。国際ビジネスに関心のある学生同士のディベートやディスカッションの中から、新しいビジネスモデルへの発想や閃きが多く生まれることでしょう。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程（最長1年間） ※国際総合学科の卒業単位には含まれません。 ※国際総合学科への進級には規定の英語スコア（募集要項を参照）が必要です。
2 年次	BCIS	◎ 経済学原論 ◎ 財務・管理会計 ◎ マーケティングと社会 ◎ 国際商事法
3 年次	BCIS	◎ アジア太平洋地域のビジネス環境 ◎ 国際マーケティング論 ◎ 企業経営論 ◎ 組織行動論
4 年次	BCIS	◎ 企業・国際金融論 ◎ 多国籍企業経営論 ◎ 国際ビジネス論 ◎ 学際研究プロジェクト（卒業論文）

*開講科目は年度や学期毎に変更されます



Business is not always about moneymaking only. In IPC's Business programme, students learn business, marketing and finance from practical and theoretical aspects. Personal satisfaction or contribution to society in relation to business will be also talked about. Politics, law, environmental issues, language and culture will be inevitably discussed. Through their classes students experience presentations, discussions and internships, gaining skills and knowledge that can be applied to the real world.

THINK Globally

INTERNATIONAL RELATIONS

現代国際学科 国際関係学コース

進路

政府機関
在外公館
政治分析
軍事
非政府組織

CAREER OPPORTUNITIES

Government Departments
Embassies
Political Analysis
Military
NGOs

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



グローバルな市民社会が機能する仕組みを理解

グローバル化が急速に進む現在、国際関係学は国際社会で生起する事象の原因と問題点をより正確に理解し、複雑に絡み合う事象を地域的・国家的・国際的な側面からそれぞれ考察することで、グローバルな市民社会が機能する仕組みを理解します。授業では、タイ、インドネシア、ベトナムなど、アジア太平洋地域で存在感を増す東南アジア諸国連合 (ASEAN) 加盟国の学生も多数在学しており、授業で議論をたたかわせる機会も多くあるでしょう。



ニュージーランド国際問題研究所 (NZIIA)

ニュージーランドがかかわる国際問題について議論し、理解を深めることを目指した非営利団体 (1934年発足)。全国に9支部あり、主に大使・大臣経験者など、外交分野の関係を招いて講演会を開いています。隔月で発行する機関誌は、国際情勢に的を絞った出版物としてはニュージーランド唯一のものです。パーマストンノース支部は例年、本学がマッセイ大学とともに共同運営し、講演会では教職員と在学生が多数出席しています (本学に近年招いた講演者を27ページで紹介)。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※国際総合学科の卒業単位には含まれません。 ※国際総合学科への進級には規定の英語スコア (募集要項を参照) が必要です。
2 年次	BCIS	◎ 国際関係学入門 ◎ ニュージーランド・東アジア関係論 ◎ 政治学入門
3 年次	BCIS	◎ 人権論 ◎ 環境政治学 ◎ 東南アジア研究
4 年次	BCIS	◎ 戦争・平和論—安全保障と安定 ◎ 情報化時代の対外政策 ◎ 北東アジア研究 ◎ 学際研究プロジェクト (卒業論文)

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

ENVIRONMENTAL STUDIES

現代国際学科 国際環境学コース

進路

持続可能な環境を促すビジネス
環境計画と政策企画
政府省庁
非政府組織

CAREER OPPORTUNITIES

Business - Environmental Sustainability Compliance
Environmental Planning and Policy Development
Government Departments and Agencies
NGOs

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



クリスティーン・マッカーシー講師

マッセイ大学で地理学修士号取得。学部課程では「自然災害と危機管理」「地球環境の諸問題」などを講義。環境問題の解決にあたり、「世界中の成功例を参考にすることでなく、分析的思考力をもって検討すべき」と唱える。

環境問題 — いま私たちにできること

理論にとどまらない実践的な環境プログラムです。自然保護局 (DoC) の専門家が行う、絶滅危惧種などを対象としたニュージーランド固有の動植物の自然保護活動を視察したり、リサイクル事業を行う企業を訪問したりすることもあります。世界各地でエコツーリズム (環境保護との共存を目指す観光開発) が注目されていることを受け、近年では「エコツーリズム入門」も開講しています。卒業論文では、出身国の環境問題を、学際的視点から見てどのように解決できるかを検討します。



非核国ニュージーランドはエコ先進国

核を一切保有しないニュージーランドはエコ先進国でもあり、政府が一丸となってエネルギー資源、リサイクル、自然環境保全、絶滅危惧種保護などのプロジェクトに取り組んでいます。特に発電部門では、総発電量に占める水力、地熱、風力など再生可能エネルギーの割合が実に77% (2011年度) にも上ります。本学の位置するマナワツ地域には、南半球最大規模の風力発電所が電力3社によって計300基近く設置されており、キャンパスからもその威容が一望できます。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※国際総合学科の卒業単位には含まれません。 ※国際総合学科への進級には規定の英語スコア (募集要項を参照) が必要です。
2 年次	BCIS	◎ 環境学入門 ◎ 環境学入門II ◎ 人間環境学
3 年次	BCIS	◎ 環境モニタリングと評価 ◎ 自然災害と危機管理 ◎ 農村環境システムとマネジメント ◎ 都市環境システムとマネジメント
4 年次	BCIS	◎ 生物保全学 ◎ 地球環境の諸問題 ◎ 学際プロジェクト (卒業論文)

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

LANGUAGE STUDIES／TESOL

現代国際学科 言語研究／英語教授法コース

進路	CAREER OPPORTUNITIES
言語教育 政府組織 在外公館 翻訳	Language Teaching Government Departments Embassies Translation

TOEIC 730 / IELTS (Academic) 6.0 with no band score lower than 5.5



言語のスペシャリストと英語教師を目指す

言語のさまざまな側面を、「異文化間コミュニケーション」「言語研究」「国際語としての英語」などの科目を通じて学びます。言語のスペシャリストとして通訳・翻訳者を目指して下さい。「言語教授法」などの専門科目を通じて英語教師を目指すこともできます。在学中にIELTS (アイエルツ) 8.0を取得すれば、世界で広く認知された英国トリニティカレッジロンドン認定の英語教授法プログラム（詳細は下記参照）を修了することも可能です。



英語教授法 (TESOL) 短期プログラム

英国トリニティカレッジロンドン認定の英語教授法プログラム (6週間) を毎年開講しています。受講開始にはIELTS (アイエルツ) アカデミック版で7.5という極めて高い英語力が求められるため、英語力を伸ばす目標としてみてはどうでしょうか。期間中は、朝から夕方まで講義と教育実習が休む間もなく予定に入っており、夜は翌日の実習準備を行う必要があるなど、密度の濃いコースで知られています。ネイティブスピーカーであるニュージーランド人でも苦労するほどの厳しさです。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程 (最長1年間) ※総合学科の卒業単位には含まれません。 ※国際総合学科への進級には規定の英語スコア (募集要項を参照) が必要です。
2 年次	BCIS	◎ 異文化間コミュニケーション ◎ 現代短編小説
3 年次	BCIS	◎ 言語研究 ◎ 国際語としての英語 ◎ 文学から見たアジア太平洋文化
4 年次	BCIS	◎ 言語教授法 ◎ 初學者教授法 ◎ 文学と大地 ◎ 学際研究プロジェクト (卒業論文)

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

WE TEACH TEACHERS HOW TO TEACH ENGLISH

There are a variety of TESOL qualifications offered by IPC. IPC offers Diploma and Certificate programmes accredited by Trinity College London as well as IPC's own short course for international English teachers to improve their English-teaching abilities.

カリーン・シャニエ博士

フランスのニース大学で英文学、アメリカのデキサス科学大学でロマンス諸語の修士号取得。カリフォルニア大学デービス校大学院博士号取得。



BUSINESS COMMUNICATION

国際総合学部 ビジネスコミュニケーション学科

コミュニケーション力を鍛え『ビジネス』に繋げる

ビジネスとコミュニケーションの2つを同時に学ぶプログラム。企業のビジネスモデルを参考に起業を想定し、マーケティング、簿記、宣伝広告など、どのようにビジネスを立ち上げ運営していくかを学んでいきます。ビジネスは国が変われば文化背景や言葉、マナーも異なり、国際社会で活躍するには臨機応変な対応が求められます。本学の国際的な環境を最大限に活用しながら、「起業家への道」を歩むために学び、備えます。



起業プロジェクト I・II

ニュージーランドの法律の下に実際に起業します。過去には自動車関連部品の輸入事業や英日翻訳事業を立ち上げたグループもあり、起業志向の強い学生が参加します。学内では学生会が運営する「ビジネス委員会」が活動しており、多国籍の在学生たちが授業を通じて学んだ知識を活用する貴重な場となっています。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※ビジネスコミュニケーション学科の卒業単位に含まれます。 ※ビジネスコミュニケーション学科への進級には規定の英語スコア(募集要項を参照)が必要です。
2 年次	DIS	◎ ビジネスコミュニケーション入門 ◎ ビジネスコミュニケーションⅠ ◎ ビジネス基礎Ⅰ
3 年次	DIS	◎ ビジネス実習 ◎ ビジネスコミュニケーションⅡ ◎ 起業プロジェクトⅠ ◎ ビジネス基礎Ⅱ
4 年次	DIS	◎ 起業プロジェクトⅡ ◎ ビジネスコミュニケーションⅢ ◎ メディアに見るビジネス問題 ◎ ビジネス研究プロジェクト

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

TOURISM

国際総合学部 観光学科

世界の『観光・旅行業界』についての知識を習得

観光・旅行業界に求められる基礎的な理論と実践力を身につけ、異文化環境で求められる国際的感性と、ホスピタリティー業で不可欠とされる「単なる英語力にとどまらないコミュニケーション力」を養います。いずれも、ホテルなどの宿泊施設や旅行代理店の人事担当者が求める人材像と言えるでしょう。ツアー会社や観光施設などで実地経験を積む科目の履修が必須です。観光学科はこれまで、外資系を含む大手ホテル等に卒業生を多く輩出しています。



フィールドトリップで顧客を想定

冬はスキーやスノーボード、夏はアウトドアアクティビティで世界中から観光客が押し寄せるニュージーランド。各地での実地研修や一流のホスピタリティーが学べるのも観光学科の魅力の一つです。フィールドトリップではニュージーランドの独特なアクティビティを体験し、顧客を想定したサービスの提供を考えます。自らが肌で感じ顧客と同じ立場になって考えることも授業では重要視されています。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※観光学科の卒業単位に含まれます。 ※観光学科への進級には規定の英語スコア(募集要項を参照)が必要です。
2 年次	DIS	◎ 観光学入門 ◎ 観光業の歴史と発展 ◎ 観光地と観光商品
3 年次	DIS	◎ エコツーリズム ◎ ホスピタリティ産業Ⅰ/Ⅱ ◎ 観光企業実習Ⅰ/Ⅱ ◎ 観光業がもたらす影響
4 年次	DIS	◎ 旅行代理業運営論 ◎ ホテル経営論 ◎ 航空業界研究 ◎ 観光学研究プロジェクト(卒業研究)

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

ロス・カッセルズ講師

森林学学士、開発学修士。専門は南太平洋島嶼国の森林開発・保全。専門家として長年滞在したソロモン諸島では、熱帯雨林の医薬品への活用方法を提言するなど、自然保護を視野に入れた持続可能な開発に尽力。



ENVIRONMENTAL ISSUES

WHAT CAN WE DO ABOUT THEM?

“Environmental issues—what can we do about them?” Nuclear-free New Zealand is known for its eco- and environment-friendly policies. Energy resources, recycling and environmental conservation are important topics of discussion in this country. Students are expected to identify what the problems are, to think what they can do about them, and to investigate possible solutions.



ENVIRONMENTAL STUDIES

国際総合学部 環境学科

環境問題に関する見識を深める

「都市部の環境問題Ⅰ・Ⅱ」「絶滅危惧種の保全」などの科目を通じ、環境問題について検討していきます。「グリーン製品とテクノロジー」では、リサイクルの過程で何が再利用され、それがどのような製品に生まれ変わるかを具体的に追っていきます。フィールドトリップでは、絶滅危惧種であるニュージーランドの国鳥で、飛べない鳥として知られる「キーウィ」がどう保護されているかを見学する等、ニュージーランドの環境保全への取り組みについて理解します。



ニュージーランドの大自然から学ぶ

本学のあるパーマストンノース郊外の丘陵地には風力発電施設があり、300基近くの風車がそびえ立っています。南半球で最大規模となるこの施設は、ニュージーランドが国を挙げて自然保護を押し進める政策の象徴と言えるでしょう。こうした具体的な活動例を間近に見て理解しながら、留学生たちは自国を振り返って出身国の環境問題を改めて検討し、リサーチや議論を通じて環境保全問題に取り組みます。

■ 主な開講科目

1 年次	FEP	◎ 英語基礎課程(1年間) ※環境学科の卒業単位に含まれます。 ※環境学科への進級には規定の英語スコア (募集要項を参照)が必要です。
2 年次	DIS	◎ 環境学入門 ◎ 都市部の環境問題Ⅰ ◎ ニュージーランドの環境保全
3 年次	DIS	◎ 都市部の環境問題Ⅱ ◎ 絶滅危惧種研究 ◎ ビジネスと環境 ◎ 絶滅危惧種の保全
4 年次	DIS	◎ 地域・地球環境論 ◎ グリーン製品とテクノロジー ◎ メディアに見る環境問題 ◎ 環境学プロジェクト(卒業研究)

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

DEDICATED EDUCATORS

教授陣紹介

選び抜かれたプロが教える国際クラス

国際色豊かな教授陣はまさに大学の顔。国際教育を実践するIPCの教授陣の出身国は、ニュージーランド、英国、オーストラリア、米国といった英語圏はもちろん、ドイツ、フランス、ロシア、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、イラン、南アフリカなどに及び、在学生にも劣らない国際的な顔ぶれの教員が教鞭を執っています。

いずれの教員も、英語教育、国際ビジネス、国際関係、環境、言語研究などの専門分野においてニュージーランド内外で研鑽を積んだ、「教員」の顔と「研究者」の顔を持ち合わせる高等教育のプロです。在学生一人ひとりへの教育に情熱を持って取り組みながら、国際教育を全力で進めています。

Bachelor Of Contemporary International Studies/ Master Of International Studies

Dr Gillian Claridge
Dr Rashid Ameer
Dr Catherine Woeber
Dr Maurice Judd
Dr Nonna Danchenko
Dr Ling Guan
Dr Elizabeta Tarasova
Dr Nathan Ehambaranathan
Dr Karine Chagne
Prof Brian Springett
Dr Maureen Syn
Dr Robert Khan
Mr Neil Bond
Mr Doug Rapley
Mr Taku Saito
Mr Toshifumi Taniwaki
Mr Peter Chan

Mr Ross Cassells
Ms Karen Dunn
Mr Marveys Ayomi
Mr Stephen O'Connor
Ms Johanna Aitchison
Ms Stephanie Markens
Mr Brent Norrish
Ms Nirosha Seelaratne
Ms Virginia Vasconcellos

Diploma Of International Studies

Mrs Sue Jenkins
Ms Dana Taylor
Ms Pamela Peters
Ms Christine Muckersie
Mr James Buchanan
Ms Sharon Spencer
Mrs Leanne Hickman
Mr Edrei Valath
Ms Jan Welsh

Foundation Programme

Mr Stewart Holdaway
Mr Brendon Chapple
Mr Gareth Williams
Ms Janet Taylor
Ms Kerstin Meinecke
Mr Randall Heldreth
Ms Hueymei Chen Williams
Mr Jimmy Lourie
Ms Wilda Ribka
Mr Aaron Mai
Mr Nathan Williams-Prince
Mr Glenn Wickins
Mr Joseph Curran
Miss Shelley Zhang
Ms Colleen Bennett
Ms Jennifer Mann
Ms Belinda Guy
Ms Nicholas Partridge
Ms Miki Clarke
Mr Don Pybus

来賓講演者

国際教育を推し進めるIPCでは、各国の現職大使をはじめとする外交関係者、ニュージーランド政府関係者、国際ジャーナリストらを招いた講演会を定期的に開催しています。在学生はそうした講演会を通じて各国の政治・経済戦略や外交方針を身近に感じ、視野を広げることになります。さらに、入学式典と卒業式典にも、そうした人物を基調講演者として招いています。2011年11月には、ニュージーランドのジョン・キー首相がパーマストンノース訪問の際、IPCのキャンパスを視察に訪れ、多くの教職員と在学生が首相に面会し、意見交換を行う機会を得ました。

来賓講演者紹介



マーティン・ホランド教授

ニュージーランド・欧州連合 (EU) 学会会長であり、カンタベリー大学欧州研究センター所長。本学では「21世紀のEUが抱える課題」と題した講演会を開催。国内7大学からなる「ニュージーランドEUセンターズネットワーク」設立の際の中心メンバー。



ダリル・コーブランド氏

元カナダ外交官で外交アナリスト。本学では「インターネットによる情報公開とはー外交・国際関係・公益に及ぼす影響」と題し、現代のコミュニケーション技術が外交をいかに「デジタル化」したかについての講演会を開く。



リステリアナ・オベランター等書記官

インドネシア共和国駐ニュージーランド大使館に勤務。東南アジア諸国連合 (ASEAN) 発足の背景、「ASEANウェイ」と呼ばれるコンセンサスと内政不干渉、加盟国や近隣諸国が抱える問題やその影響についての講演会を開催。



ノッパドン・テビタック氏

タイ国の駐ニュージーランド大使。「スマートパワー：パートナーシップの新時代のタイ、そしてニュージーランド」をテーマに講演。東南アジア諸国連合 (ASEAN)、アジア太平洋経済協力 (APEC)、東アジアサミット (EAS) についても言及。



ジョン・マッキノン氏

ニュージーランドの元国防事務次官で、駐中国大使などを歴任した国防・外交分野のエキスパート。現在は「アジア・ニュージーランド基金」理事長。本学では「地域安保から見た中国の戦略ーニュージーランドへの影響」と題した講演会を開く。



ピーター・ケネディ氏

韓国、ベルギー、ルクセンブルク、ブルガリア、ルーマニア、欧州連合にニュージーランド大使として駐在。2009年に北大西洋条約機構ニュージーランド代表としてアフガニスタンを訪問。第一次湾岸戦争の際には国際問題担当補佐官として当時の首相を補佐。



ダグラス・キッド卿

ニュージーランドの元国會議長。1978年に南島マルボロ地区から国會議員に初立候補し、以後1999年まで8期連続当選。その間、水産相、エネルギー相、労働相などを歴任した。2000年にメリット勲章、2009年にはナイトの爵位を受ける。



イアン・マッケルビー氏

ランギティキ地区選出国會議員で、綱紀粛正委員会、第一次産業委員会、規制検討委員会の各委員。議員当選前は、マナワツ地域の知事を9年務める。農村地出身で農協幹部だった経験から、「持続可能な農業」について造詣が深い。



ヨンギュ・パク氏

ニュージーランド駐劄大韓民国大使。「朝鮮半島、韓国ーニュージーランドの二国間関係」と題し、膠着した朝鮮半島の緊張状態を解く上で、アメリカ・日本・中国の果たす役割は大きいと講演。韓国とニュージーランドの協力関係の更なる発展を呼びかける。



バージニア・ホンラド・ベナビデス氏

ニュージーランド駐劄フィリピン共和国大使。「21世紀におけるフィリピンーニュージーランドの二国間関係」について講演。両国の関係強化のために、様々な課題をともに乗り越えて行きましょう、と訴えかけた。



アイヤル・ジッサー氏

イスラエルのテルアビブ大学人文科学部学部長。シリア・レバノン史・政治の専門家として本学では中東の歴史と政治状況、文化や宗教的背景、人口問題といった全体像について語り「アラブの春」について講演を開いた。



デビッド・ヒューブナー氏

米国の駐ニュージーランド大使。「太平洋の世紀における安全保障と通商問題」について講演。米国とニュージーランドの両国間の交流、投資、インフラ、軍事、文化状況の両国関係の深化といった協力の成功例について概括した。

POSTGRADUATE STUDIES

国際総合大学院

進路

コーポレートマネジメント
ファイナンス
ビジネス
マネジメント
マーケティング

CAREER OPPORTUNITIES

Corporate Management
Finance
Business
Management
Marketing



『学際研究』で学ぶ国際総合大学院

ビジネスと環境、政治と科学を学際的に学ぶ大学院課程で、「狭い範囲のスペシャリスト」というよりも、むしろ「幅広い基盤と対応力を持った人材」の育成を目指しています。1年次はそうした分野を講義中心に学び、修士論文のテーマを絞っていきます。2年次には、リサーチまたは企業内プロジェクトを行い、指導教員の助言を受けながら論文を完成させることで、国際学修士号が得られます。1年次のみを修了して卒業することもでき、その場合には「国際学大学院ディプロマ」が授与されます。



インドネシア大使館勤務
サティア・デュヒタ／インドネシア出身
2000年度卒業生

幅広い基盤と対応力を持った人材を育成

少人数制を保ちながら多国籍の在学生からなる国際総合大学院では、各国から集った同級生との切磋琢磨によりグローバル感覚を養うことができるとともに、学際研究を通じて幅広い知識が得られます。指導教員は全員が博士号取得者で、それぞれの専攻分野も、財政学、化学、経営学、政治学、動物学と多岐に及びます。修士課程修了後は、母国に戻って博士課程へ進むケースが多いほか、在ニュージーランド大使館に採用された卒業生もいます。

英語力要件 ※詳しくは「募集要項」を参照		TOEIC 800点 IELTS 6.5
■ 主な開講科目		
国際学大学院ディプロマ（PDIS）		
1 年次	◎ ビジネスと環境—企業の社会的責任 ◎ 政治と発展 ◎ 人類と大地—その持続可能性 ◎ 科学・環境と政策立案 ◎ 資源管理論	
国際学修士号（MIS）		
1 年次	◎ 国際学大学院ディプロマに相当	
2 年次	◎ 修士論文	

*開講科目は年度や学期毎に変更されます

THINK CRITICALLY
AND SOLVE PROBLEMS





提携先企業

- ホテル
 - Hotel Coachman
 - Kingsgate Hotel
 - Palmerston North Motel
 - Pavilion Motel
- アート・レジャー
 - Centrepont Theatre
 - Creative Sounds Inc.
 - Marineland
 - School of Dance
 - Taylor Jensen Fine Arts
 - The National Aquarium of New Zealand
- 不動産
 - JVL Real Estate
- フードサービス
 - Bangkok Thai
 - Café Cuba
 - Chada Thai
 - China Inn
- Coco The Chocolate Cafe
- Coffee Club
- Coffee On The Terrace
- Creative Caters
- LA Coffee Shoppe & Bakery
- Marbecks Cafe
- Robert Harris Cafe
- Thai House
- The Bean Cafe
- The Brewers Apprentice
- 販売・サービス
 - Bond & Bond Ltd
 - City Rock
 - Cottage Flowers
 - Desktop Tech
 - DTR
 - Forget-Me-Not Flowers
 - Hardy's Healthy Living
 - Harvey Norman
 - K Mart
 - New World Aokautere
 - GQ Clothing
 - Guthrie Bowron
 - Kelly's Supermall
 - Ocean and Ice
 - Pete Lamb Fishing
- Ruapehu Health
- Spectra Hair & Body
- The Body Shop
- The Flowerman Ltd
- The Pet Care Company
- Tranzit
- Trumps Fashions
- Unichem Chemist
- Vautier Pharmacy
- Wet Pets & Country Pets
- 銀行・金融
 - Broadbase
 - Money Managers
 - Westpac
- 自動車販売・整備
 - DP Tyres Ltd
 - Kennard's Collision Repair
 - Roskilda Autos
- 教育
 - Lollipop Educare
 - Takaro Kindergarten
 - Tiritea School
 - Young Hearts Educare
- 印刷・写真・現像サービス
 - K & M Print
 - Picture Perfect Photography
- スポーツ
 - IPC Recreation Centre
 - Manawatu Golf Club
 - Manawatu Martial Arts Centre
- 官公庁・団体
 - Convention Centre
 - Department of Labour
 - Horizons Regional Council
 - Manawatu Volunteer Resource Centre
 - New Zealand Rugby Museum
 - RSA
 - Salvation Army Family Store
 - SPCA
 - Summerset Rest Home
 - Trade Aid

『テ・マナワ美術博物館』でインターンシップ ◎小河柚香／2011年度入学

博物館でのインターンシップでは、ボランティアを募って行うイベントにチームリーダーとして携わる経験をさせていただきました。当日の流れを綿密に考え、企画書を作り、プロモーションをするという流れで、とても目まぐるしい期間となりましたが、多くの参加者の方々から満足したというお声を頂き、安心すると同時にとても嬉しく思いました。戸惑う事もありましたが、これを機に大きく成長できたのではないかと考えています。この経験を経て、ゼロから創り上げていく仕事に興味を持ち、仕事に対する視点やイメージが変わりました。



INTERNSHIP PROGRAMME



インターンシップ

グローバル化時代の『社会人基礎力』の重要性

大学に在籍しながら、企業や団体で実務研修を行うことができる実践的なプログラムです。円滑なコミュニケーション力や臨機応変さが求められる国際社会では、インターンシップでの経験が大きな自信に繋がります。語学力を磨くだけでなく、実務経験を高め、社会人としての一步を踏み出します。将来、就職先となる可能性のある企業や専門団体とのネットワークを築き、就職の可能性を高めましょう。研修先からの評価が高い学生が、ジョブオファーを受けることも少なくありません。

国際ビジネス・インターンシップ

現代国際学科の科目として開講されているもので、企業での実地訓練を通じて、ビジネスへの理解と経験を深めます。履修するためには、高度な英語力とリサーチスキルがあることを事前に証明しなければなりません。そのハードルをクリアすれば、国際的な優良企業などでのインターンシップが可能になります。修了後は、履歴書に経験として反映されるだけでなく、業界内でのネットワークも広がり、就職にも有利になります。





パシフィックダイナーサービス就職／角矢麻美（2012年卒業）

JR東日本就職／赤平拓朗（2012年卒業）

マンダリンオリエンタル東京就職／松本かやの（2012年卒業）

COSTCO就職／花輪拓也（2013年卒業）

カトートレジャーグループ就職／尾窪里菜（2012年卒業）

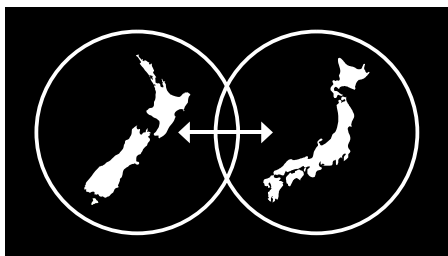
ザ・ペニンシュラ東京就職／石川洋平（2013年卒業）

京セラドキュメントソリューションズ就職／金村一樹（2011年卒業）

オークネット就職／渡邊真菜花（2013年卒業）

パークハイアット東京就職／植田祐樹（2013年卒業）

JTBオークランド就職／妹尾明日香（2012年卒業）



CAREER SERVICES

IPC provides students with support for their career planning and employment opportunities, giving them a competitive edge in the globalised human resources markets. IPC students can receive advice and guidance from certified career counsellors/advisors, and participate in work experience/internship programmes, in Japan as well as in New Zealand.

キャリアサポート

『日本人』として世界で活躍するための教育指導

どのような人生を送るために、どのような仕事を選ぶのか

IPCのキャリア教育の考え方は「グローバル化時代に即応する国際人の育成」「キャリア形成支援」「進路・就職指導に関するきめ細やかな対応」。そして「自立のための教養教育」が主軸です。ビジネスで使える英語力、異文化コミュニケーション力、ビジネスのグローバル化が進展する今、自らがアイデアを出し、創造力、企画力、行動力、調整力を駆使しながら交渉の舞台に立ち、それを形にしていくことが今後ますます必要とされることでしょう。その意味で、企業からのIPC生に対する潜在的ニーズは高まっています。

『ニュージーランド』『日本』の両国からの就職支援

他大学を凌駕する就職支援サービスを目指す

IPCの就職支援サービスは、ニュージーランドのIPC本キャンパスと、東京・八重洲のIPCキャリアセンターが連動して行っています。IPC生は日々の学習や現地企業でのインターンシップ等を通じてグローバル人材としての能力を磨く一方、「自己分析・適職診断」「就職ガイダンス」「個別面談」「エントリーシート・履歴書作成指導」「模擬面接（個別および集団）」「内定者座談会」「企業幹部・人事担当者講話」など、様々な就職支援サービスを受けることができます。



恩庄俊雄／スチューデント・ガイダンス・オフィサー

HAVE - DO - BE

何を持つかより、何をするかが大切。
何をするかより、どう在りたいかが一番大切。

海外の大学で学ぶ私達の学生は、当然の事ながら「英語力」が一番の武器になります。大切な事はその「英語力」をどう活かすかです。しかし、それよりも大切にしているのは「どのような人間」で在りたいのかという事です。社会に貢献する人材になる為には「英語力」だけでは不十分です。同時にプラスαの部分は個人の求める将来像によって異なります。IPCのキャリアサポートは一人ひとりのニーズに対応し、自信を持って社会に送り出す事を指導理念としています。

■ キャリアサポート一覧

■ IPCキャリアセンター（日本：東京・八重洲）

- ◎ 日本国内の企業・求人情報の収集と学生への情報配信
- ◎ 企業人事担当を迎えての会社説明会
- ◎ 日本の就職状況・動向について説明するキャリアセミナー
- ◎ 履歴書・エントリーシート指導
- ◎ 面接・マナー指導
- ◎ 卒業生への相談・就職指導

■ IPCキャリアサービス（ニュージーランド）

- ◎ 個別進路面接
- ◎ 内定者による就職活動セミナー
- ◎ 履歴書指導
- ◎ 面接・マナー指導
- ◎ インターンシップの紹介
- ◎ 海外就職希望者への説明会



NEW ZEALAND

ニュージーランド

New Zealand offers an ideal learning environment for international students. While pursuing academic excellence at quality educational institutions, they can enjoy various activities that include outdoor experiences in the beautiful natural environment. They can also interact with New Zealanders, known as 'Kiwis', who are well-known for their hospitality toward visitors from all over the world.



大自然の中で育まれる豊かな人間性

南半球にあるニュージーランドは多民族が暮らす多文化国家。日本とは季節が逆になり、真夏のクリスマスに驚く留学生も多く見られます。国鳥である飛べない鳥「キーウィ」は日本でも知られた存在ですが、ニュージーランドで最も愛されている鳥「キーウィ」は、この国の代名詞ともなり、ニュージーランド人自身のことを敬称で「キーウィ」と呼ぶこともあります。鳥自体は今では外来種の影響で絶滅の危機にあり、その姿はニュージーランドでも一部の動物園や動物保護区でしか見られなくなりました。ニュージーランドには英国系ニュージーランド人や先住民族マオリをはじめとし、アジア諸国や南太平洋諸島などからの移住者を含む440万人が暮らしています。古くからの先住民族であるマオリ族は、今から1000年ほど昔に、幻の鳥「モア」など鳥獣の天国だった未開のこの地に、ポリネシアから大型カヌーでたどり着いたと伝えられています。自然と共存したマオリの生活

スタイルは、今でも靴を履かずに裸足で街中を歩く姿や、マオリ民族固有のデザインをタトゥーとして体に刻む人を見かけるなど、そのDNAに記憶されています。観光や酪農で有名なニュージーランドは起業家が多いビジネスの国でもあり、オークランドやウェリントン等の主要都市は商業やエンターテインメントの中心地となっています。またニュージーランドはアウトドア・アクティビティが盛んで、「バンジージャンプ」の発祥国として知られています。壮大な大自然は映画「ロード・オブ・ザ・リング」や「ナルニア国物語」の撮影地ともなりました。ニュージーランドでは、国全体を挙げて教育に取り組んでいます。世界でも有数の高い水準となっており、高度な教育を求めて世界各国から10万人もの留学生がニュージーランドで学んでいます。



学園都市パーマストンノース

IPCを含む高等教育機関が集まるパーマストンノースは、かつては「Knowledge City (知識の街)」、近年では「Student City (学生の街)」として知られています。ニュージーランド北島の南部、酪農で名高い緑豊かなマナワツ地方に位置し、人口8万人余りの国内7番目の都市です。大型ショッピングモールをはじめ、数多くのレストラン、カフェが立ち並び、映画館、美術館、劇場など文化施設、スポーツ施設も充実しています。特に街の中心にある「スクエア広場」は、市民の憩いの場所として人気。夜には美しくライトアップされるなど街のシンボルとなっています。パーマストンノースから首都ウェリントンまでは車で2時間、オークランドやクライストチャーチといった主要都市までは飛行機で1時間とアクセスが良く、ニュージーランド北島の交通の要所となっています。



PALMERSTON NORTH

パーマストンノース

The city of Palmerston North, New Zealand, hosts IPC and many other educational institutions. Students can enjoy various activities, including savouring culinary delights of exotic countries, going to theatres, and shopping at myriads of stores, etc. The central park is called 'The Square', and it is a very popular place for the people of Palmerston North. The clock tower situated in the centre of the park is beautifully lit up at night.



学生の街へようこそ！

“パーマストンノース市を代表して皆さんを歓迎します”

IPCはパーマストンノースコミュニティを形成する主要機関のひとつであり、良質な教育を提供していることと、学生の指導に重きをおいた高等教育機関として知られています。IPCはパーマストンノース市にとって欠かせない存在になっており、市とIPCのパートナーシップは今後も成長を続けることでしょう。IPCの学生は地元企業でインターンシップを行うことでニュージーランド文化に親しみ、人々との交流を通じて人間的成長を遂げています。

パーマストンノースは中規模で現在も成長中の都市です。レストランやショッピングを楽しむだけでなく、野外でのアクティビティやスポーツイベント等もとても盛んです。パーマストンノース市長として、市を盛り立ててくださる皆さんを歓迎します。ここでの皆さんの生活が楽しく、実のあるものになることを願ってやみません。お会いできるのを楽しみにしています。

パーマストンノース市長
ジョノ・ネイラー





Museums

テ・マナワ美術博物館

美術館と博物館が一体となった「テ・マナワ」では、美術、歴史、科学の3分野に関する展示が行われています。ニュージーランドとパーマストンノース市の文化に触れることができる貴重な施設であり、授業の一環でここを訪れる生徒や学生の姿が多く見られます。



Theatres

リージェント・オン・ブロードウェー劇場

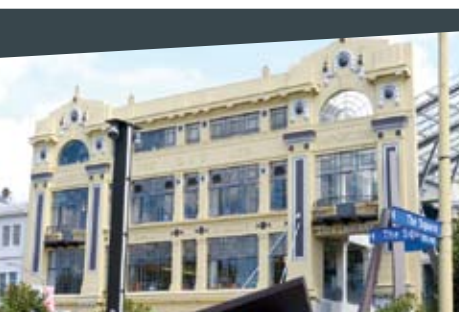
1930年開館の映画館を改装した、荘厳な雰囲気を持つ文化ホールで、IPCの入学式や卒業式の会場になることもあります。各種コンサートや演劇、ミュージカルが連日のように開かれ、賑わいを見せています。



Cinema

映画館

中央広場からすぐの「ダウンタウン・シネマズ」と「シネマゴールド」には合わせて10以上のシアタールームがあり、最新映画が毎日20本余り上映されています。毎年8月には国際映画祭が開かれ、日本の作品も毎年のように出品されています。



Library

パーマストンノース市立図書館

充実した蔵書に加え、1階の多目的フロアではミニコンサートが開かれるなど、市文化発信の拠点になっています。大きくとられた窓ガラス沿いの2階席はとてもゆったりとしており、日本の図書館には見られない雰囲気味わえます。



Banks

銀行

ニュージーランドでは、エフトボス (EFTPOS) と呼ばれるデビットカードとほぼ同じシステムが発達しており、ほとんどの場所で使用できるため、現金を持ち歩かずに買い物をすることができます。IPCでは入学後に、口座開設のサポートをしています。



Medical Clinics

診療所

祝日を含めて毎日開業している診療所「シティ・ドクターズ」。予約なしで利用できる上、薬局も併設されているので、便利で心強い施設です。生命にかかわる緊急時には、救急車を呼び、総合病院の緊急外来で手当てを受けることもできます。



Bus Terminals

情景豊かな主要都市への長距離バス

首都ウェリントンや最大の都市オークランドへもパーマストンノース市中心地のバスターミナルから出かけることができます。壮大な景色を眺めながら、バスに揺られる気分はまるで映画のよう。初めての一人旅も友人との旅行もまずはここから始まります。



Public Parks

ビクトリア・エスプラナード公園

ニュージーランド庭園協会にも認定されている美しいバラ園や植物園があります。広大な敷地を移動するための園内列車は子どもたちに大人気。休日にはランチやバーベキューを行う家族連れでにぎわうなど、名所ともなっています。



Town Events

街を賑わす多文化イベント

アートイベントやパフォーマンスを行う場所を提供するために、大通りを通行止めにするなど、市を上げてイベントを盛り上げています。新年には、広場から花火が打ち上がり、市民が抱き合って祝う感動的なものとなっています。



Here,
I can Dream.



Aquatic Centre

リド・アクアティック・センター

パーマストンノース市が運営する大型スイミング施設で、水泳大会が開催される本格的な競技用屋外プールや・屋内プールに加え、レジャー用プール、サウナやジム、児童用遊戯施設、カフェも設置されており、IPCの学生やスタッフも利用しています。



Shopping Centre

ブラザ・ショッピングセンター

ファッション、雑貨、カフェ&レストラン等、100店舗以上が集まる大規模ショッピングモール。老舗デパートやディスカウントストア、大型スーパーとも隣接しており、パーマストンノースと周辺地域のショッピングの中心地となっています。



Statues & Sculptures

建築物と公共彫刻

エリザベス女王も宿泊された由緒あるホテルや、アールデコ調の建築が保存されているかたわら、市立図書館のようなユニークな建築物もあります。また市は公共彫刻設置に力を入れており、様々なスポットで市民の目を楽しませてくれます。



Convention Centre

コンベンションセンター

パーマストンノースはニュージーランドの真ん中に位置し、企業が本社を構えることも多いビジネス・流通の中心地でもあります。そのためコンベンションセンターではビジネス会議や学会も多く開催されます。IPCの入学式はここで举行されます。



Police Station

パーマストンノース警察

市内中心地に本署、他4カ所に分署を置き、パーマストンノースの治安維持に努めています。厳格なイメージの警察官ですが、ニュージーランドならではのフレンドリーさも合わせ持ち、留学生にとっては気軽に助けを求めることのできる、心強い味方です。



Weekend Markets

パーマストンノースの土曜日と日曜日

パーマストンノースでは週末に2カ所で、それぞれサタデーマーケット、サンデーマーケットと呼ばれる市場が開かれ、新鮮な野菜や焼きたてパン、手作りハチミツやジャム等の出店が立ち並びます。様々な国籍や人種の利用客が市場を国際色に染めています。



Rail Service

パーマストンノースからゆったり鉄道旅行

長距離鉄道「ノーザンエクスプローラー」が首都ウェリントンから商業都市オークランドまで週3回運行されており、パーマストンノースからも乗り降りできます。ウェリントンでは南島行きフェリーに連絡しており、南島旅行の起点になっています。



Post Shops

パーマストンノース郵便局

国内郵便、国際郵便での荷物の発送のほか、絵はがきやワイン発送用ボックス等の販売、切手や封筒を自分用にカスタマイズするサービス（主にビジネス用）も行っています。銀行とATMも併設しているため、現金引き出し等も行うことが可能です。



Cafes & Restaurants

若者で賑わうジョージ・ストリート

パーマストンノースの「ジョージ・ストリート」と言えば、地元の人なら必ず知っているカフェやブティックが立ち並びおしゃれなストリート。週末には、オープンカフェスタイルでコーヒーやエスニックフードを楽しむ学生の姿が多く見受けられます。

C IPCキャンパス CAMPUS

美しいキャンパスで過ごす留学生活

パーマストンノースの高台に位置する国際大学IPC。
25.5ヘクタールのキャンパスは広大ながらも、すべての施設まで歩いていける距離にあります。ケガや病気の際には、ヘルスクリニックでドクターの処置や治療を受けることができます。キャンパスにはバス停があり、市内中心地まで約10分とアクセス良好。緑豊かなキャンパスでは、ニュージーランドでも希少な鳥類を見ることができ、勉強疲れの学生たちの癒しともなっています。

少人数制クラスを可能にする高等教育機関としての充実した施設

学生たちがしっかりと落ち着いた環境で授業を受けることができるように設計された教室は、日本で見られるような大講義室ではなく、一人ひとりの成長を育むための『少人数制クラス（最大20～25名程度）』に基づく設計。体育館は全学集会やクラブ活動等に利用され、スポーツジムも整備されています。ゲストハウスである「スワンハウス」では、パーティーやイベントを催すこともあり、ダンスや音楽を楽しむ学生のためには「環 -Kan- Performing Arts Centre」が建造されるなど、IPCキャンパスでは学生たちのための施設が充実しています。



学生寮 <Halls of Residence>

10棟ある学生寮は男女別に分かれており、セキュリティも完備されています。各寮にはホールリーダーと呼ばれる学生寮長が学生サポート課の指導の下、各学生の寮生活を支援。学生寮は多文化環境の中で自分を成長させるための最高の環境です。



レクリエーション・センター <Recreation Centre>

クラブ活動、全学集会、イベント会場、入学・卒業式のディナー会場などとして幅広く利用されています。また道場やウェイトマシンやトレッドミルなどの施設を誇るトレーニングルームがあり、在学生は夜遅くまでスポーツと体力づくりに動んでいます。



環 <Kan - Performing Arts Centre>

パフォーマンスアートセンターの館内はガラス張りの2フロアで設計されており、完全な防音設備が整っています。ダンス部や軽音楽部などの練習場所となり、学生が主催するイベント前には夜遅くまで懸命に練習する学生の姿が見られます。



図書館 <Library>

美しい緑の風景が眼前に広がる図書館は昼夜を問わず、在学生が課題やリサーチに取り組む勉強スペース。館内のセミナールームは、通常授業に加え、各種セミナーやクラブ活動のミーティングの場ともなっています。



IPC事務局 <Administration Centre>

学生サポート課が常駐するIPC事務局には、母国からの荷物が届いた時の受取りから履修登録、保険の手続き、ホームステイの受け付け、英語の学習方法の相談、個人的な悩みの相談など、さまざまな理由で学生が訪れます。



スワンハウス <Swan House>

国内外から訪れる各国大使や提携校からのゲストをもてなすスワンハウス。入学式や卒業式の保護者のための食事会もここで行われます。また、グローバルリーダーを志す在学生のミーティングも行われ、スーツ姿で出入りする学生の姿が見られます。

SAFE & COMFORTABLE CAMPUS LIFE

安全・安心の『キャンパスライフ』

毎日の生活こそが留学の魅力

海外留学に興味があっても「どういった留学生活を送るのだろう?」と不安を感じる人もいます。ただ海外で授業を受けるだけでなく、異国での日々の生活を含めて、初めて「留学」が成立するとIPCは考えます。学生寮や学生食堂、地元コミュニティも留学の舞台です。IPCではこの「生活面の留学」を重視し、安心で安全、そして有意義なキャンパスライフが過ごせるよう、学生を支援しています。フレンドリーな国として知られるニュージーランド。夢や目標を抱いてニュージーランドにきた留学生たちは、地元住民やニュージーランド人学生、多国籍の在学生らの温かい歓迎を受けて、これからの国際大学IPCでの新しい挑戦をスタートします。



Students interested in studying abroad may feel somewhat anxious about living in a foreign country. IPC believes that 'studying overseas' is a holistic learning experience that includes both 'studying at school' and 'living in a new cultural environment'. At IPC, its Halls of Residence, Dining Hall, and local community are all equally important parts of the overseas experience. Based on this concept, IPC supports students by offering a safe, comfortable and educational living environment on campus.

ROOM WITH A VIEW TO THE WORLD

自立心を養う『寮生活』

国境を越えるIPCの『寮生活』

「寮」と聞いて連想するのは「門限」? それとも「規律」? 母国ではなかなか機会のない寮生活を、あえて海外で行い、文化や価値観の違う学生と同じ屋根の下で暮らすことで、視野が広がります。IPCの卒業生たちは「学生寮がよかった」「寮生活からたくさん学んだ」「私たちは家族のような存在です」と語ります。それは、苦楽を共に勉学に励んだり、一緒に食事をつくったり、ビデオを観たりと、それぞれのほんの小さな経験が積み重なっていることにほかなりません。そこで生まれた国境を超えた友情は、将来かけがえのないものとなるはずです。IPCに留学するということは、世界に深い繋がりを持つことに等しいのです。



学生寮生活は留学の基本

留学生活の礎をなす学生寮生活。キャンパス内には10棟の学生寮(男女別)があり、学生寮長を中心に、留学生同士の交流も盛んに行われています。夜にはセキュリティスタッフが巡回し、安全な寮生活を送れるよう努めています。

国際感覚を培う共同生活

留学の醍醐味のひとつは、国籍や文化の異なる仲間との共同生活。徒歩で気軽にお互いの部屋を訪ねたり、共に課題に取り組んだり、お互いの母国の料理でもてなしたり。多文化環境のキャンパスライフが国際感覚を培います。

キャンパス内のバス停から街へ

キャンパスの学生寮前にあるバス停からは市営バスが運行し、パーマストンノース中心部までは10分ほど。ショッピングセンター、映画館、レストランやカフェは、スクエア広場にあるバス降車場のすぐそばという便利です。



快適なインターネット環境

IPCではブレイドシステムのインターネットサービスを提供しています。無線LAN環境なので、キャンパス内の建物のどこからでもアクセスが可能。パーマストンノース市中心部や市立図書館、空港からでもアクセスできます。

共同キッチンで「食文化」を学ぶ

各ホールに備えつけられているキッチンにはオープンや電気コンロがあり、週末には手作りの料理やお菓子を作る学生の姿が見られます。国が違えば、食文化も違います。多国籍学生の食文化を学ぶ絶好の機会となるでしょう。

勉学に励むための私的空間

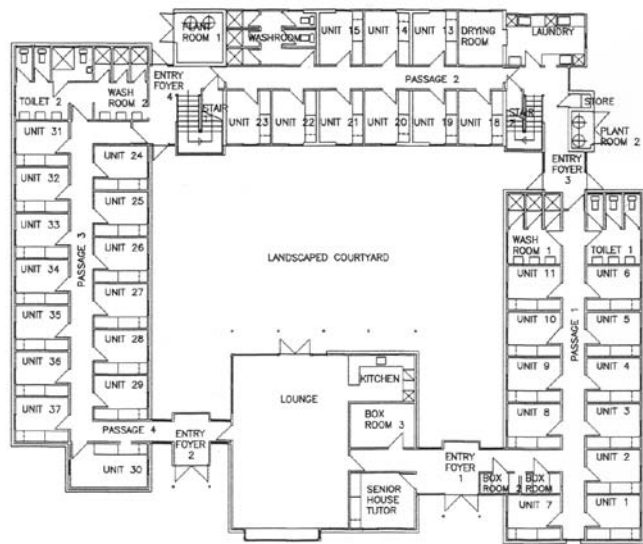
学生寮の自室は留学生活の拠点。広めの勉強机と椅子も用意され、窓から見える緑の景色に落ち着いた環境で勉学に励むことができます。留学生同士の国際交流の中で文化や習慣、母語を教え学びあうなど、友情を育む場ともなっています。

HALLS OF RESIDENCE

安全・安心・快適空間

宗教や国籍を超えた心と心が触れ合える場

「ひとつ屋根の下の大家族」という呼び名が相応しいIPCの学生寮。ここでは様々な宗教や異なる国籍を持つ学生との共同生活が行われます。世界の舞台で活躍するという志をもった学生たちのとの交流は、将来において何ものにも変えられない貴重な経験となるはずです。何気ない日常から芽生える仲間意識や、他国籍の学生の将来を見据えた勉学に対する情熱に胸を打たれることもあるでしょう。クラスでは学べない内成長の日々が待っています。



Many graduates of IPC agree that they really loved their time at IPC's Halls of Residence, and that they learned a lot from life on campus. The communal experience at IPC broadens students' horizons through living with people with different cultures and values. Friendship fostered through cross-cultural interaction is a lifelong treasure.

SECURITY TEAM

自立心を養う『寮生活』

安全と分かっている、万が一に備える

世界でも有数の安全な国、ニュージーランド。だからといって犯罪がゼロであるわけではありません。IPCでは緊急時、非常時に備え、24時間のセキュリティ体制を整えています。キャンパス外からの訪問者はすべてアドミニストレーション・センターで記名することになっており、大学が訪問者を把握する体制を整えています。また、学生寮の入り口の鍵はすべてオートロックです。



いつでも友人に会える憩いの場

各寮内にあるCOMMONルーム（談話室）では、いつも同じ寮の友人に会えます。このスペースには液晶テレビが設置されており、ラグビートーナメントのシーズンには学生がこぞで集まり、地元チームを応援。テスト前には徹夜で勉強する学生も。



中庭で満天の星空を観測

寮は学生の部屋が中庭を取り囲むようにしており、寮内を移動するにはとても便利。晴れた日は、友人らとの語らいの場となります。勉強合間の気分転換には絶好のスペースです。夜はニュージーランドの満天の星空が見られます。



共同生活の基本は気配りから

周りの人たちへの気配りや配慮は共同生活の基本。自分本位の考え方はなかなか寮生活には馴染めません。みんなが使うからこそ、「清潔」「綺麗」を一人ひとりがいつも心がけることが大切です。海外の寮生活でもIPCでは不便を感じることはありません。



消防署と連動の火災警報機

寮内には、火災警報機が備え付けられています。この警報機は地元消防署と連携しており、万が一、警報機が作動した場合にすぐに消防車が駆けつけるシステムです。万全を期して在学生の火災訓練も年に数回行われています。



メンテナンスサービスも充実

快適な留学生活が送れるよう、10棟ある学生寮では、それぞれに室温管理が行われています。暖房器具、入居時の寝具提供、平日毎日の清掃業者による清掃サービスなど、在学生が安心して暮らせるメンテナンスサービスが充実しています。



留学スタイルから選べる部屋タイプ

留学生活の基本は1人部屋ですが、学生の要望に応じて2人部屋に住むことも可能。2人部屋に進んで生活する学生の多くは、他国の学生とより密接な生活を過ごすなかで英語力とコミュニケーション力を鍛えたいと名乗り出る学生がほとんどです。



Breakfast 》朝食	7:00 - 9:00AM
Lunch 》昼食	11:30AM - 1:30PM
Dinner 》夕食	5:30 - 7:00PM



DINING HALL

Delicious and nutritious meals are provided three times a day for 365 days of the year. This has been made possible because IPC is totally committed to the provision of pastoral care for its students, who may decide not to go home during a term break. Western, Japanese, and other ethnic dishes are prepared for each mealtime. Students can enjoy lunch in the air outside the Dining Hall on a fine day, while some may choose to enjoy their food while reading a book or doing homework.

ダイニングホール

1年365日、1日3回の食事。これは留学生のための国際大学だからできること。学期休暇中にも自国に帰国せず、留学生活をがんばる学生を年中無休で応援します。IPCでは西洋風、和風、エスニック料理等、栄養バランスが考えられた食事をすることができます。晴れた暖かい日は屋外でオープンカフェの雰囲気の中、仲間と語らいながらランチを楽しむのもよし、読書をしたり、課題をこなすのもよし。朝は6時半から夜の8時までダイニングホールが開放され、コーヒー、紅茶などドリンク類は自由に飲めます。ダイニングホールのスタッフは、全員が食品衛生管理資格を有し、IPCの学生と同じく多国籍チームで結成されています。さまざまな国から集まった厨房スタッフが、バラエティーに富んだメニューを用意しています。どれを選ぶかは皆さん次第。またすべての食材の情報を学生に開示して、安全な食事をしてもらうことを常

に心掛けています。多国籍の学生の食文化をしっかりと反映しベジタリアンにも特別に料理が用意されています。ここは学生が1日に3回足を運ぶ場所。ダイニングホールのスタッフは、学生にダイニングの暖かみを感じてもらおうと、積極的に話しかけています。教授陣も利用するダイニングホール。授業中では聞けない話や普段とは違う一面が見られることもあり、学生と教授との距離が最も近い時間を過ごすことができる空間ともいえるでしょう。パーマストンノース市の食品衛生管理グレード「A」評価（最高評価）を受け、市から表彰されるほどの徹底した安全・衛生管理が自慢のIPCダイニングホール。毎日食事をする学生の皆さんに安心してもらえる食環境を維持しています。



STUDENT SUPPORT

留学生の相談窓口『学生サポート課』

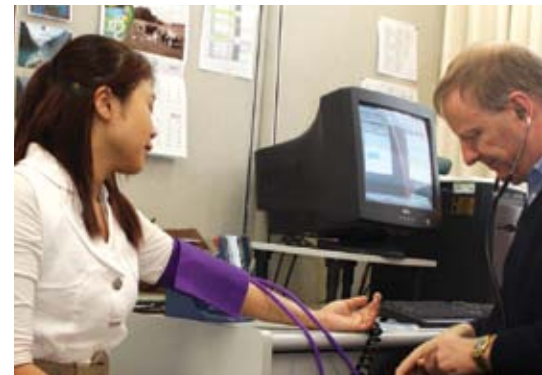
24時間体制で全力サポート

学生サポート課の大きな役目のひとつは、学生の留学生活に対する不安を取り除くこと。学生サポートカウンターには毎日さまざまな理由で学生が訪ねてきます。母国から荷物が届いた時の受け取りからTOEICの申し込み、保険の手続き、ホームステイ希望の受け付け、英語の学習方法の相談、個人的な悩みの相談、休暇中の過ごし方の相談など、その理由は多岐にわたりますが、どんな理由であろうと、学生サポートのスタッフが親身に対応しています。日本人スタッフも常駐しており、英語にまだ不安を感じる日本人初年度生にとっては大きな味方となります。

留学中には、いつ何が起こることも限りません。留学先は安全に定評のあるニュージーランドですが、何かしらの悩みを抱えたり、スポーツ等でケガをしたりするとも限りません。

IPCでは1日24時間365日のサポート体制を実現しています。多くの留学生が暮らすキャンパスを、年間を通じて安心かつ安全な環境に保ち、学生が心身ともに健康な生活を営めるよう、学生サポート課が全力で取り組んでいます。

IPC's friendly Student Support Team tries its best to accommodate and support you throughout your time at IPC - from the day you arrive until the day you graduate.



Medical Support

在学生のための診療所「ヘルス・クリニック」

留学中のけがや病気は心細いものです。IPCでは、在学生専用の診療所を学内に設置しています。市内から派遣された一般医（GP）が平日昼休みの週2回（1日約90分）、在学生を診察に訪れ、必要に応じて処方箋を発行します。看護師も週2回（1日約4時間）勤務。処方薬は、キャンパスから徒歩数分のショッピングセンター内にある薬局ですぐに購入できます。診療時間外には、毎日夜まで開いている市内の診療所で受診。命にかかわるような病気やケガで入院する事態になった場合には、大学スタッフが病院に同行します。



Percels

母国からの小包を大切に保管

家族や友人から送られてくる手紙や小包は、留学生にとっては何よりの楽しみでしょう。国内外からの手紙類は、学生一人ひとりに与えられたメールボックス（郵便箱）に毎日配達され、郵便室には寮の部屋の鍵を使わないと入室できない仕組みになっています。また、書留や小包は、学生サポート課のスタッフが常駐するIPC事務局で大切に保管し、学生に直接手渡しています。



Enrolment

履修登録について相談

科目履修登録の時期には、教員はもちろんのこと、学生サポート課へ相談に来る在学生の姿も多く見られます。卒業率の高さには、学生の相談を親身になって受ける教職員スタッフのサポートがあります。履修登録の後も、課題提出やTOEICテストの申し込みなどは学生サポートカウンターで受け付けています。



IT Support

パソコンのトラブルを解決

インターネット（学内無線LAN）への接続に必要な利用券の購入も学生サポートカウンターで行います。授業やプライベートで頻繁に使うパソコンだけに、故障やトラブルもつきもの。IPCには、コンピューターシステムに長けたITスタッフが常駐しており、問題が発生したときには適切なアドバイスが受けられます。また、図書館には無料で利用できるパソコンが用意されており、夜遅くまで課題に取り組む学生の姿が見られます。



Meet your Second Family

IPC's registered host families are carefully selected to enable students to make the most of their homestay experience. The IPC Homestay Coordinator tries to match students with the most suitable families, taking into account the details of the family profiles, such as, for example, if there is a small child or a pet, and what lifestyle, food, hobbies and pastimes they enjoy. After a two-week trial period, students start their long-term homestay.



IPCが提携するホームステイ先は全部で30家族。コーディネーターが厳選な審査の上で学生にあったホストファミリーを紹介。

留学の醍醐味『ホームステイ』

ホストファミリーは第二の家族

ニュージーランド文化に触れる一番の近道はなんといってもホームステイ。英語の上達のスピードアップにつながるのももちろんですが、何よりも母国を離れていても家族の温もりを感じられるのが大きなメリットです。ホストファミリーとの毎日の食事の他、週末には一緒に買い物をしたり、映画を観たり、休暇中は家族揃って旅行をしたりと、第二の家族との出会いがここにはあります。時には、分からない語学の勉強のサポートも。IPCで登録されているホストファミリーはすべてIPCの厳正な審査を受けています。ホームステイ・コーディネーターは、学生のホームステイ経験が最良のものとなるように、学生とホストファミリーのマッチングを慎重に行います。小さい子どもがいるかどうか、ペットの有無、生活の時間帯、人柄、食事の傾向、趣味等を考慮し、ホームステイ先を選定します。2週間のテスト期間の後、正式なホームステイ先が決定します。「英語がなかなかうまく話せない」という言葉の心配も、初めは誰もが通る道。親日国であるニュージーランドならではのホストファミリーは、留学生の事情をよく理解した上で、日本人学生を歓迎してくれています。



GRADUATES AT WORK

時代と共に成長する卒業生

過去の主な就職先・進学先

■航空
ANAエアサービス東京
JALスカイ東京
エアーニッポン
エティハド航空
エバー航空
エールフランス
空港ターミナルサービス
全日空
長崎空港
日本貨物航空
日本航空インターナショナル
ニューランド航空
フースウェスト航空
ユナイテッド航空

■ホテル
ウェスティン都ホテル京都
神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ
ザ・ベニンシュラ東京
ザ・リッツ・カールトン東京
全日空ホテルズ
東急ホテルズ
パンパシフィックホテル横浜
ヒルトン大阪
ヒルトンを古屋
フォーシーズンズホテル丸の内東京
ホテルニューハレスリゾート
ホテル日航関西空港
ホテルニューオータニ大阪
ホテル阪急インターナショナル
丸の内ホテル
マンダリンオリエンタル東京
横浜ロイヤルパークホテル
パークハイアット東京

■旅行・レジャー
ANAセールス
H.I.S.
JALパック
JTB
アイエシ・トラベル
近畿日本ツーリスト
クラフツリゾム
トップトラベルサービス

トップツアー
鳥羽水族館
白井国際産業
名鉄観光サービス
リゾートトラスト
旅行総研
ワーナー・マイカル・シネマズ

■音楽・出版・広告
DAYS JAPAN
IMAGICA
太陽企画
電通デック
日本経済新聞社
ブリタニカ・ジャパン
ユニバーサルミュージック

■情報・通信
NTT
アルファネット
ソフトハウス
日本コンピュータ技術
バンデクノ

■化学・ゴム・窯業
TOTO
伊藤忠ファインケミカル
コニシ
七宝金型工業
東芝モノフラスクス
東燃化学
日本電気硝子

■機械・電子・電機
カシオ計算機
川崎重工業
京セラミタ
ソニー・エムシーエス
パナソニック
日立橋味デック
日立製作所
富士電機
ヤマハ
ユニデン

■輸送用機械・精密機械・印刷
イナバ印刷社
白井国際産業
クリーンプリント
ダイハツ工業
高野精密工業
日本機械工業
日本シリコングラフィックス
富士精工
前田精密製作所

■商社・卸売
P&Gマックスファクター
朝日通商
アリババジャパン
伊藤忠商事
東映
東海豊勤
北海道コカ・コーラボトリング
レナウン
ロイヤル
ロエバ・ジャパン
コスモコ

■販売
アマゾンジャパン
イオンリテール
イトーヨーカドー
オーニックスセブン
木下真珠
クイックシルバー・ジャパン
大創産業
トヨタカローラ
ロゼブリンズ
コトリ
日本トイザラス
ピクカメラ
フラグスタイル
ホンダ販売
松坂屋
ユニクロ

レオパレス21

■電気・エネルギー
島羽水族館
白井国際産業
クリーンプリント
ダイハツ工業
高野精密工業
日本機械工業
日本シリコングラフィックス
富士精工
前田精密製作所

■信販・損保
GE三洋クレジット
JAGCS
セゾン自動車火災保険
みずほインベスターズ証券

■教育
BERLITZ JAPAN
ECC
IPU・環太平洋大学
イーオン
愛媛女子短期大学
クラーク記念国際高等学校
創学ゼミナール
創志学園
東京工科大学
福岡大学
文化服装学院
ラストリゾート

■サービス
アートコーポレーション
インターレインズ
サントリー・ショッピング・クラブ
ドールコービー
ニッポンレンタカーサービス
松屋フーズ
クワミフードサービス
オネクネット
カトープレジャーグループ
パシフィックダイナーサービス

■物流
DHLジャパン
アルプス物流

■官公庁・団体
警視庁
日本財団

日本貿易振興会(JETRO)
マレーシア政府観光局

■海外
ANZ BANK(NZ)
ASEAN(インドネシア)
BANGKOK POST(タイ)
CATHAY PACIFIC AIRWAYS(香港)
CENTRAL SOUTHLAND COLLEGE(NZ)
CISCO SYSTEMS(オーストラリア)
CONTINENTAL AIRLINES(台湾)
CSI(タイ)
DEPARTMENT OF CONSERVATION(NZ)
EMBASSY OF INDONESIA(NZ)
EMBASSY OF JAPAN(NZ)
EMBASSY OF NEW ZEALAND(インドネシア)
EMBASSY OF NEW ZEALAND(タイ)
EMIRATES AIRLINES(UAE)
FONTERRA(NZ)
HOROWHENUA COLLEGE(NZ)
HSBC(タイ)
HUFFER DIRECT(NZ)
IBM(シンガポール)
IPC TERTIARY INSTITUTE(NZ)
ITOCHU NEW ZEALAND(NZ)
JTB(NZ)
JVL REAL ESTATE(NZ)
MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS(タイ)
MINISTRY OF SOCIAL DEVELOPMENT(NZ)
OPUS INTERNATIONAL(NZ)
PARK ROYAL WELLINGTON(NZ)
SAMSUNG(韓国)
SWISS BANK(香港)
TIM'S TAYLORS TOURS(NZ)
TOYOTA NEW ZEALAND
WANGANUI GIRLS' COLLEGE(NZ)
WARWICK HOTEL(フィジー)
WELLINGTON INTERNATIONAL
AIRPORT(NZ)
WESTPAC BANK(NZ)

STUDENTS' VOICE

在学生が語る『国際大学IPC』とは？



英語でのコミュニケーションが日常の楽しみに／濱本 聡仁

＜私立崇徳高等学校出身＞

英語力が上がるにつれ、日常の多国籍学生との会話が一層楽しくなりました。入学当初は、質問や自己紹介を行うのが限界でしたが、より詳しい状況説明や冗談を交えての会話ができるようになりました。今では英語での会話にストレスを感じなくなりました。同じ寮内に、常に様々な国籍の人が居て、常に英語に触れる機会があります。日本でも、英語を勉強できますが、より現実的な英語環境で勉強できるのがIPCです。英語基礎課程では、基本的な文法や会話の練習を行いますが、ここでしっかり基礎を固める事が出来まし、自分に足りない語学力を補えます。また、夜間特設クラスでは、TOEICテストの強化や、英文法の理解、リーディングとライティングの強化もできます。今後の目標はもっと広く、深く英語に触れ、ネイティブスピーカーの様に英語を話せるようになることです。留学中は更なるステップアップの為に、何事にも挑戦し続けたいと思っています。



IPCは第二の故郷／近井 志帆

＜香川県立高松桜井高等学校出身＞

多国籍の留学生らと学びあうことで、今までに経験したことのないようなたくさん刺激を受けます。国際関係の授業では1つのトピックに対し、日本からの視点ではなく、文化背景や考え方の違いから多方面の視点を知ることができ、常に新しい発見があります。また、IPCの寮生活では、助け合いの中で利害関係を越えた強い絆を築けます。今では、たくさんの方の世界各国の友人ができました。その留学生活の中で、とくに大きく成長できたのは「人間力」だと思います。他国に身を置くことで精神面でも強くなったこと、そしてなにより両親のありがたさを強く感じています。私の夢は日本ならではのカスタマーサービスやホスピタリティの良さを世界に伝えることです。IPCに来てその夢はどんどん膨らんでいます。「世界で挑戦したい!」と考えるのであれば海外留学は必須です。ここニュージーランドで、是非あなたの夢を見つけてください!



国際視点で自己研鑽できる理想の大学／山下 隆志

＜私立福岡大学附属大濠高等学校出身＞

将来、英語を駆使した職業に就くことを視野にいたるとき、ニュージーランドにある国際大学IPCでの第二言語取得は他大学より好ましいと思い、オープンキャンパスをきっかけに入学を決めました。学生と講師間の関係性は、少人数制ならではの親近感があり、勉学における問題解決を容易にすることができます。それに伴い、グループ活動やプレゼンテーションなどの個々のスキル向上に特化したカリキュラム編成には、大人数制の環境下では学ぶことのできない要素があると思います。第二言語を学ぶということは有意義なもので大きな価値になりうるものだと思います。しかし忘れてはいけないのは、それだけでは役には立たないということです。モラル、常識、知識がそろって初めて役立つものになるのではないかと思います。英語を取得することだけが海外留学の全てではないということです。



美しい環境の中で自分自身と向い合える場所／豊嶋 美律

＜私立クラーク記念国際高等学校東京キャンパス出身＞

国際環境がIPCの魅力です。多国籍の学生らと食事を共にし、授業や休憩時間も様々な国の学生との交流があります。そうした中では、様々な言語を聞く機会や、独特の英語の発音に触れることがあります。積極的なコミュニケーションを心掛けることでどんどん新しい視野で物事を考えることができるようになりました。今では英語での日常会話では困ることはありませんし、映画も字幕なしで理解できます。IPCの授業の良さは少人数制にあると思います。語学を学ぶ際は大講義室での日本式の大学の授業ではなく、先生との距離が近く、発言やそのやり取りが言語理解への近道ではないでしょうか。私は将来は歌手を目指しています。日本での活動にこだわらず世界を見据えて英語を学び海外での経験を積んでいます。ニュージーランドのゆったりとした時間の中で、自分と向かい合い、考えを見つめ直せることも国際大学IPCの良さの1つではないでしょうか。



英語圏で積極的に活動する重要性／松本かやの

現在、マンダリン・オリエンタル東京でベルアテンダントとして宿泊されるお客様のチェックインや館内のエスコートなどの業務に携わっています。海外からのお客様が半数以上を占めるため、英語は必須です。様々な国からお越しになれるお客様の要望に答える上で語学力以外にコミュニケーション能力がとても大切だと感じています。多国籍多文化環境を持つ国際大学IPCでの学生たちと交流やそこで得た経験は、業務を円滑に進めるだけでなく、お客様により良いおもてなしをするうえでとても役にたっています。



積極性を育んだ学生生活／加藤 英也

最先端技術を使って国内外に新しい広告サービスを展開するサイバーエージェントを選びました。自由な社風と大きな裁量権を持って、常に挑戦できる環境です。IPCでは、グローバルに通用する英語力が身に付いただけでなく、多文化環境の下で勉強やスポーツなどを通してコミュニケーションを取ったことで、多様性を受け入れた上で組織をマネジメントする感覚の基礎が備わったと感じます。また、プレゼンテーションなどのアウトプットを重ねたことが、何事にも前向きに挑戦する自身の強みとなり、現在の仕事のスピード向上につながっています。



SUPPORT FOR PARENTS

留学成功は保護者の皆さまのサポートなしでは成し得ません。留学生を海外に送り出したすべての保護者の皆さまに安心していただくために、IPCでは学生の生活の様子や学業・成績について定期的にご報告するとともに、ニュージーランドキャンパスを訪れる保護者対象のツアーを設け、現地の状況を知っていただくための環境づくりを整えています。



ニュージーランドキャンパスで行う 保護者向けサポート

◎ 日本語ホットライン

保護者の方からのご相談に応じる日本人スタッフ対応の電話とメールによるホットラインを、ニュージーランド事務局内に設けています。成績や取得単位数などの勉強面、あるいは生活面に関する保護者の方からのご質問は、学生の日常生活や現地の様子に精通したスタッフが日本語にてお答えします。

◎ 保護者ツアー

IPCでは入学式(5月初旬)、インターナショナル・スプリング・フェスティバル(9月下旬)、卒業式(12月初～中旬)に合わせて、保護者の皆さま対象のツアーを実施。海外に送りだしたお子様が無事に現地の生活に適應している様子や、ニュージーランド観光も兼ねたパッケージツアーです。

◎ Eメール速報サービス

キャンパスの様子や各種お知らせをお伝えする、保護者向けの「アオテアフラッシュ」。最新ニュースやキャンパスと学生の状況をいち早くお知らせするサービスとして機能。

【日本人スタッフ対応ホットライン】 +64 (ニュージーランド国番号) - 6-350-2827



日本で行う保護者向けサポート

◎ 日本でのオリエンテーション

新入生の留学生生活は渡航前から始まります。保護者の皆さまを交えて実施する日本でのオリエンテーションでは、留学の心構え、留学生活、英語学習、在校生・卒業生との座談会、進路指導等について、IPCでの学生生活を成功に導くためにスタッフが万全にサポートします。

◎ 日本での保護者会

年2回(2013年度は7月下旬・12月中旬)、日本各地で開催される保護者会では、テレビ会議システムやスカイプを利用した学生・保護者・担当スタッフの3者個別面談を行い、学生生活の様子、学業面の確認、進路などについて話し合います。その後に行われる全体会は保護者同士の交流の場となっています。

◎ IPC日本事務局

東京駅八重洲南口からすぐというロケーションのIPC日本事務局。現地ニュージーランドキャンパスと日本を結ぶ橋渡し役となっています。様々な準備、各種事務手続、お子様に充実した留学生生活を送っていただけるよう保護者様との連携の要となる等、日本側の大学の窓口です。



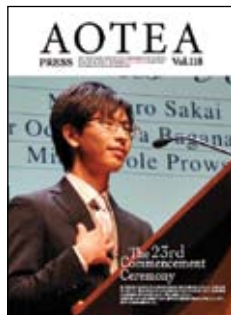


NEWSLETTERS

ニュージーランドからお伝えする情報誌

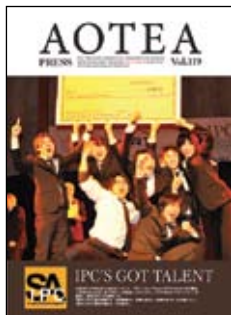
日本の保護者と学生をつなぐIPCのニュースレター

IPCの学生の様子を写真と記事でお知らせ続けて22年。活躍している学生の紹介、成績優秀者の発表、クラスの様子、入学式・卒業式の詳細、クラブ活動、卒業生からのメッセージ等、IPCのニュースを定期的に日本の保護者の皆さまにお届けいたします。バックナンバーはウェブサイトでもご覧いただくことができます。 <http://ipc.ac.nz/aotea>



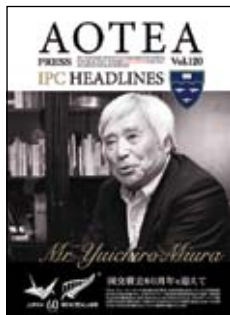
第23回IPC入学式

【AOTEA PRESS vol.118】
マオリ族伝統歓迎儀式「ポウヒリ」／英語基礎課程／教授紹介／NZ学生対象イベント紹介／IPC英語スピーチコンテスト全国大会／NZ対がん協会チャリティー行事／卒業生インタビュー／在学生紹介／保護者会案内



IPC'S GOT TALENT

【AOTEA PRESS vol.119】
TOEICテスト結果／NZ国際問題研究所講演会(NZIIA)／教授紹介／IPC学内スピーチコンテスト／キャリアセンター／NZ留学生生活／提携校紹介(MOU)／在学生紹介／IPCカレンダー



国交樹立60周年を迎えて

【AOTEA PRESS vol.120】
2学期入学生オリエンテーション／成績優秀者紹介／国交樹立60周年記念「三浦雄一郎氏」来学／教授紹介／インターンシップ／保護者会レポート／岡山県赤磐市から短期研修／オープンキャンパス案内／在学生紹介



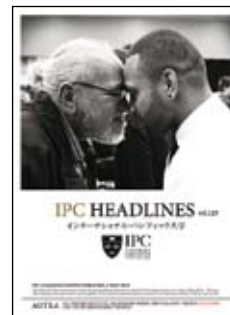
スプリング・フェスティバル

【IPC HEADLINES vol.121】
TOEICテスト結果／教授紹介／インターナショナル・スプリング・フェスティバル紹介／在学生紹介／8月入学のご案内
※「AOTEA PRESS」から「IPC HEADLINES」へ改称



2012年度卒業式

【IPC HEADLINES vol.122】
IPU短期留学プログラム紹介／日本語スピーチコンテスト／IPCクラブ紹介／教授紹介／成人式／在学生紹介／進路情報／8月入学のご案内／提携校紹介(MOU)／IPCカレンダー



第24回IPC入学式

【IPC HEADLINES vol.123】
新入生がIPCへ到着／入学式／国際化が進むIPCに各国大使が参列／マオリ族伝統歓迎儀式「ポウヒリ」／IPU・環太平洋大学国際教育学科1期生修了式／保護者会案内／IPCカレンダー／提携校リスト一覧



IPC SPEECH CONTEST

【IPC HEADLINES vol.124】
IPC学内スピーチコンテスト／タレントショー「ゴット・タレント」／NZIIA／TOEIC結果発表／岡山県赤磐市の中学生が短期研修／パフォーミングセンター「環」がオープン／IPCダンスクラブ「SHOTZ」／短期語学研修のご案内



日本の「祭り」イベント開催

【IPC HEADLINES vol.125】
IPCインターナショナル・スプリング・フェスティバル／成績優秀者を表彰／TOEIC結果発表／キャリア・キックスター／NZIIA／言語研究「TESOL」／「祭り」イベント京都の黄昏／短期語学研修のご案内／夜間特設授業



2013年度卒業式

【IPC HEADLINES vol.126】
第23回IPC卒業式／保護者代表挨拶／卒業生プレゼンテーション／卒業生リスト一覧／Your Career Pathway／教授紹介／第2回成人式／在学生紹介／IPCカレンダー／提携校リスト一覧



夜間特設クラス

【THE IPC TIMES vol.7】<学生編集>
英語力を底上げする「夜間特設クラス」の全15クラスの紹介／年間1200時間の英語訓練／4技能の徹底で「英語脳」を鍛える／TOEIC対策／チュータリングシステムとは？／英語力を身につけたその先を見据えて

IPU

日本にある系列大学。

系列大学IPU・環太平洋大学への編入で、
時代が求める「英語教師」を目指す。

本物の英語教師への道が開かれる理由。

「英語を駆使できる」先生がどれだけ日本にいてしょうか。
留学と国際交流を経験したIPCの学生には、時代が求める英語教育が
できる英語教師になるチャンスがあります。IPCを卒業後、日本にある系
列大学のIPU・環太平洋大学に編入することで、日本の大学卒業資格と
教員免許（中・高英語）が取得できます。グローバル時代に求められる
英語教師の育成をニュージーランドと日本の2つの大学で実現します。

BECOME A TEACHER IN JAPAN

How many teachers in Japan have a good command of English? IPC students will have an opportunity to get a teacher's certificate by transferring to Faculty of Education for Future Generations at International Pacific University, Okayama, Japan. With the certificate, graduates are able to teach English at junior and senior high school levels.

IPU INTERNATIONAL
PACIFIC
UNIVERSITY
環太平洋大学

「環太平洋大学構想」から生まれた2つの大学。

1990年に開学したIPC・インターナショナル・パシフィック大学と、2007年
に開学したIPU・環太平洋大学。いずれも、母体である学校法人創志学園
の理事長・大橋博が1987年に提唱した「環太平洋大学構想」をもとに創
設された大学です。太平洋を取り巻く国々の「教育の国際化」を目的とし
た「環太平洋大学構想」の第一歩として誕生したIPCと、その第二ステ
ージとして開学したIPU。同じ1つの目的を掲げて創られた大学だからこ
そ、2つの国で学べる基盤がしっかりと築かれています。



お問合せ先

入試広報課

Tel: 086-908-0362

Tel: 086-908-0200 (代表) E-mail: info@ipu-japan.ac.jp

〒709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺721

www.ipu-japan.ac.jp

インターナショナル・パシフィック大学 2015年4月入学案内

募集人員 **50名** <IPC日本人学生枠>

入学時英語力問わず
FOUNDATION PROGRAMME
英語基礎課程

英語基礎課程修了後に下記へ進学

BACHELOR OF CONTEMPORARY INTERNATIONAL STUDIES

現代国際学科 ■ 国際ビジネスコース
■ 国際関係学コース
■ 国際環境学コース
■ 言語研究／英語教授法コース

専攻コース: 英語力要件

TOEIC	IELTS アカデミック版	TOEFL	英検
730	6.0 かつ各バンドで 5.5以上	79-80	準1級

DIPLOMA OF INTERNATIONAL STUDIES*

*卒業要件に英語基礎学科(1年間)修了相当分を含む

■ ビジネスコミュニケーション学科
■ 観光学科
■ 環境学科

専攻学科: 英語力要件

TOEIC	IELTS アカデミック版	TOEFL	英検
450	4.5	45-46	-

英語力に自信のない方

英語基礎課程(ファウンデーション・プログラム)に在籍し、現在の英語力に合ったクラス学習を始めることで、1年間を通して基礎力を身につけ、2年次からの専門課程に備えます。クラスだけでなく、学生寮、インターンシップ、クラブ活動、ホームステイなどの機会を通じて、自らの英語力を実践し、磨いていきます。

※専攻コース・学科は、英語基礎課程(ファウンデーション・プログラム)の修了後、2年次進級前に決定します。入学時に決める必要はありません。

英語が得意な方

入学時点で所定の英語力があれば、英語基礎課程(ファウンデーション・プログラム)に在籍せず、現代国際学科に直接進むことができ、3年間でニュージーランドの大学卒業資格を取得することが可能です。英語基礎課程に在籍しても、所定の成績を修めていることを条件に、TOEIC 650点(IELTS 5.5)を満たした翌学期は、現代国際学科の科目の履修が2つまで認められます(パートタイム・ディグリー。同学科に正式に進むには、上記の英語力要件を満たす必要あり)。

国際総合大学院	募集人員 30名	詳しくは「国際総合大学院案内(英文)」をご請求ください。	■ 修士課程(2年制) ■ 大学院ディプロマ課程(1年制)
---------	----------	------------------------------	----------------------------------

■ 入学までのプロセス

1	大学説明会・個別相談会のいずれかに参加	全国で開催する大学説明会・個別相談会では、留学事情に精通したスタッフが本学の魅力と特長について詳しくご説明します。
2	出願	出願資格などの詳細をよくご確認の上、各期の締切日までに出席してください。
3	入学審査	書類審査、英語筆記試験、作文、自己紹介アクティビティ、グループディスカッション、本人・保護者面接を行い、総合的に審査します。
4	可否通知	審査結果は郵便にて通知いたします。合格者には入学手続き書類を併せてお送りします。
5	入学手続き	合格者は、書面にてご連絡する締切日までに諸手続きを完了してください。
6	渡航前オリエンテーション	英語準備や留学生活の概要を把握する渡航前オリエンテーション(全3回を予定)に必ず参加していただきます。
7	ニュージーランドへ渡航	1学期開始日(2015年4月20日)の約1週間前に渡航し、現地でのオリエンテーションに参加した後、IPCでの授業が開始されます。

■ 出願資格

一般出願

以下の項目でひとつでも当てはまれば、本学の入学審査を受けることができます。

- 高等学校を卒業された方、もしくは2015年3月卒業見込みの方
- 高等学校卒業程度認定試験に合格された方、旧大学入学資格検定に合格された方
- 高等学校卒業と同等以上の学力があると本学が認めた方
- 海外において、12年間の学校教育(小・中・高等学校)課程を修了された方、もしくは2015年3月までに修了見込みの方

指定校推薦出願

以下の項目全てに当てはまれば、本学指定校推薦での入学審査を受けることができます。

- 本学が指定する高等学校を2015年3月卒業見込みの方で、調査書の英語・外国語科目評価平均値が3.5以上あり、かつ全体平均値が3.0以上ある方で、学校長が推薦する方
- 英語力習得や異文化交流、本学の専門課程での学習に意欲を持ち、目的意識がしっかりとある方
- 合格した場合、本学に入学する確固たる意思をお持ちの方

編入学出願

以下の項目に当てはまれば、本学の入学審査を受けることができます。

- 大学、短期大学、専門学校、高等専門学校4-5年次のいずれかに在学中、または卒業した方で、英語力習得や異文化交流、本学専門課程での学習に意欲を持ち、目的意識がしっかりとある方

■ 入学審査日程

期	出願期間	入学審査会場	入学審査日	合格発表日(可否通知発送日)	入学手續締切日
I期	2014年 8月18日(月)～29日(金)	福岡会場	9月 6日(土)	9月22日(月)	10月22日(水)
		大阪会場	9月 7日(日)		
		札幌会場	9月13日(土)		
		東京会場	9月14日(日)		
		名古屋会場	9月15日(祝・月)		
II期	2014年 10月14日(火)～24日(金)	名古屋会場	11月 1日(土)	11月17日(月)	12月17日(水)
		東京会場	11月 2日(日)		
		福岡会場	11月 8日(土)		
		大阪会場	11月 9日(日)		
III期	2014年 12月8日(月)～19日(金)	東京会場	2015年1月10日(土)	1月19日(月)	1月30日(金)
		大阪会場	2015年1月11日(日)		
IV期	2015年 1月19日(月)～29日(木)	大阪会場	2月 3日(火)	2月 9日(月)	2月13日(金)
		東京会場	2月 4日(水)		

奨学金制度

<JNZPF特別奨学金>

1995年、教育を通じた日本とニュージーランドの人的交流促進を目的に、ニュージーランド企業を中心に「日本＝ニュージーランド・パートナーシップ・ファウンデーション(JNZPF)」が設立されました。JNZPFは日本人留学生に対し、ニュージーランドの大学における教育の機会を提供し、日本とニュージーランドの相互理解の促進に貢献できる人材を育成するため、奨学生を募集しています。

<奨学生選抜試験の日程と会場について>

上記の第I期・第II期審査日と同日に、各会場にて実施致します。詳細につきましては、本学ウェブサイトからダウンロードできる特別奨学生募集要項をご覧ください。

■ 出願書類			
出願書類	一般出願	指定校推薦出願	編入学出願
① 入学願書 *パスポートのコピー **英語力証明書のコピー	★	★	★
② 入学審査票(受験票・受験票控) *収納印の押されたもの	★	★	★
③ 調査書/成績証明書	★	★	
④ 入学審査票(受験票)返送用封筒	★	★	★
⑤ 推薦書		★	
⑥ 英文成績証明書			★
⑦ 写真3枚	★	★	★

出願書類作成上の注意

- ① 入学願書(本案内冊子に綴込)
*パスポートを所有している場合は、パスポートの写真ページの鮮明なコピーを出願書類に必ず同封してください。
**現在お持ちの英語力を示す資格や試験結果があれば、証明書のコピーを添付してください。
- ② 入学審査票(受験票・受験票控):振込金受取書は入学審査料の領収書となるため、振込後、出願者が切り離して保管してください。
- ③ 調査書:各高等学校所定の形式で厳封されたもの。高等学校卒業業者以外の方は、各証明書をご提出ください。
- ④ 入学審査票(受験票)返送用封筒:本冊子同封の本学指定封筒に切手をお貼りいただき、受験票の希望返送先住所をご記載ください。
- ⑤ 推薦書:指定高等学校の学校長からの推薦書(指定校推薦出願のみ)
- ⑥ 英文成績証明書: これまでに取得した単位などが明記された英文の成績証明書(編入学出願のみ)
- ⑦ 写真3枚:上半身脱帽、正面を向いた無背景のもの。縦4.5cm×横3.5cm枠なし。
最近3ヵ月以内に撮影したもの(全身撮影による顔の部分の小さな写真は不可)。
写真の裏面に氏名を記入の上、入学願書、入学審査票(受験票、受験票控)にそれぞれ貼付。

■ 出願方法

＜郵送にて出願＞
上記の出願書類をまとめて書留速達にてIPC日本事務局までご郵送ください。

＜日本事務局窓口へ直接出願＞
事前にご連絡のうえ、上記の出願書類をまとめてIPC日本事務局までご持参ください。
IPC日本事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 ダイヤ八重洲口ビルB1F
Tel:03-6202-0606 Fax:03-3245-6300 Email:infoj@ipc.ac.nz

入学審査料

- 入学審査料 35,000円(一旦振り込まれた入学審査料、出願書類はいかなる理由でも返還できません)
- 入学審査票(受験票・受験票控、振込金受取書・振込依頼書)は切り離さず、入学審査料とともに銀行窓口へ提出してください。
- お振り込みの際、銀行窓口で入学審査票(受験票(控))の欄に収納印があることを確認してください。

(注意)入学審査料は必ず出願者本人の名前でお振り込みください。なお、一旦振り込まれた入学審査料、出願書類はいかなる理由でも返還されません。

■ 審査・選考方法(特記無い限り日本語で実施)

1. 書類審査 2. 英語筆記試験 3. 作文 4. 自己紹介アクティビティ(*) 5. グループディスカッション 6. 本人・保護者面接

- 審査項目1～6を審査日に実施します。
- 本学への留学を成功させるには、英語力の向上に加え、留学生自身が高い目的意識を持っていることが不可欠です。
そのため、本学の入学審査では、受験者本人の留学に対する意欲および留学生としての資質を厳格に審査いたします。
- (*)他の受験者に英語または日本語で自己紹介をします。方法は問いませんので、自分を印象付ける内容を事前に考えておいてください。
- 会場と日程については、特別な事情がある場合には可能な限り柔軟に対応いたしますので、事前にご相談下さい。

■ 合否発表

審査内容を総合的に判断した上で、各期のそれぞれ最終審査日から8日以内(祝日の場合には次の平日)に合否通知を発送。

■ 留学費用

■**入学金** 300,000円 <初年度のみ> ※ 合格から2週間以内に納入していただきます。

■**授業料** 1,380,000円 <年間>

- ※ 初年度は入学金と同時に、2年次からは毎年3月に納入していただきます。
- ※ 1年間に必ず履修しなければならない8科目分に充てられます。8科目を超える履修があった場合には、超過1科目毎に172,500円が発生します。
- ※ 他に教科書・資料代として1科目毎に4,000円が必要となります。
- ※ TOEIC受験料(NZ\$185) が別途発生し、ニュージーランド事務局にて随時支払います(初年度は入学直後と各学期末の計4回受験、以後は年1回受験。

■**教育施設充実費** 180,000円 <年間>

- ※ 初年度は入学金と同時に、2年次からは毎年3月に納入していただきます。
- ※ 図書館、コンピュータ・ラボ、体育館などの各種教育施設の充実に充てられます。

■**寮費** <年間>

- ① 1,080,000円 <1人部屋(ホール1～6)> (※初年度は①のみとなります。)
- ② 1,260,000円 <1人部屋(ホール7～9)> ③ 900,000円 <2人部屋(ホール7～10)> ④ 1,320,000円 <ホームステイ>

- ・ 2分割し、1回目を4月、2回目を7月に納入していただきます。
- ・ 寮費には1日3食分の食費と水道光熱費を含みます。3食は学内のダイニングホール(食堂)で提供されます。
ホームステイの場合には、授業期間中の平日昼食はダイニングホールで、それ以外はホームステイ先でそれぞれ提供されます。
- ・ 入学初年度の入寮先は原則としてホール1～6のみとなります。2年次からは、指定の期日までに提出のあった希望調査書を元に本学で決定しますが、部屋数に限りがあるため、希望に添えない場合もあります。
- ・ 寮費は、4月入学の場合、1-2学期(4～12月)の居住について算出しています。3(夏)学期(1～3月)の寮費は、在学生在が翌年度履修を予定している場合、あるいは3学期をもって卒業する場合であれば、追加徴収はありません。
- ・ また、留学最終学期は、学期終了日の翌日から数えて最長2週間(12月卒業の場合のみ年内の事務局業務最終日まで)、寮またはホームステイ先に引き続き滞在できます。
- ・ 年度途中における部屋の変更は原則として行いません。
- ・ 学期途中の退寮、学期間および学期途中の休暇、旅行などで寮・ホームステイ先を離れたことに伴う寮費の返金はありません。
学期途中で退寮した場合でも、その学期相当分の寮費は徴収させていただきます。
- ・ インターネット使用料(無線LANによりキャンパスの各施設内で接続可)が別途必要になり、ニュージーランド事務局にて随時支払います。
従量制のためデータ使用量により金額は異なります(月額10GB:NZ \$ 27.50～)。1NZドル＝90.42円(2014年4月の外貨購入レート平均)

■**入寮保証金** 200,000円 <初年度のみ>

- ※ 寮費の1回目支払いとあわせて4月に納入していただきます。
- ※ 未納金、破損修理費を差し引いた上で、退寮後に返金します。

- ・ 上記費用のほかに、渡航前オリエンテーション費、パスポート・学生ビザ取得費用、ニュージーランド渡航費、留学生用保険への加入費用、学生会費(任意支払)がそれぞれ発生します。
- ・ IPC日本事務局で受け付けた入学審査料はいかなる理由があっても返還いたしませんが、本学に納入されたその他費用に関しては、ニュージーランドの法律に基づいた本学返金規定に沿って返還を行います。

■ 学生寮のご案内

IPCキャンパスには10棟の学生寮があり、「Hall(ホール)」と呼んでいます。
文化の違うさまざまな国から集った学生たちと共に暮らし、学び合うことで互いを深く理解し合える環境があります。

ホール1-6 <1人部屋>



(備え付け)
シングルベッド、
クローゼット3段
造りの引き出し、机
と椅子

7㎡程度の個室

パネルヒーター

ホール7-9 <1人部屋>



(備え付け)
シングルベッド
クローゼット(5段造
りのかご収納つき)、
机と椅子

10.5㎡程度の個室

床暖房

ホール7-9 <2人部屋>



(備え付け)
2段ベッド、シェア・
クローゼット(5段造
りのかご収納つき)、
机と椅子

10.5㎡程度の部屋を2人で共有

床暖房

ホール10 <2人部屋>



(備え付け)
2段ベッド、シェア・ク
ローゼット(5段造り
のかご収納つき)、机
と椅子

10㎡程度の部屋を2人で共有

床暖房

■すべての寮に共通する設備

- コモンルーム(談話室):
キッチン(電気コンロもあり)
冷蔵庫、共用電話、ソファ
テレビ及びDVDデッキ
- ランドリー: 洗濯機と乾燥機
- 共同のシャワールームとトイレ
- バゲッジルーム:
スーツケースなど大型の荷物を保管
- 無線LAN(インターネット)



入学願書

写真貼付

- ①サイズ 縦4.5cm x 横3.5cm
- ②上半身・正面・無帽・背景なし
- ③最近3か月以内に撮影したもの
- ④写真の裏面に必ず出願者氏名を記入してください。

記入日 20 年 月 日

出願形態	希望審査会場	希望審査日
☐ 一般出願 ☐ 指定校推薦出願 ☐ 編入学出願 ☐ JNZPF奨学生出願	☐ 札幌 ☐ 大阪 ☐ 東京 ☐ 福岡 ☐ 名古屋	20 年 ()月()日

出願者	フリガナ		生年月日
	氏 名 (姓)	(名)	年 月 日 ()歳
	ローマ字 (姓)	(名)	性別 ☐ 男 ・ ☐ 女
			国籍
出願者	現住所 〒 - 都道 府県	Email: @ Tel: - - Fax: - - 携帯電話: - -	
	入試結果送付先 〒 - (現住所と異なる場合のみ) 都道 府県	Tel: - - Email: @	

学歴・職歴	立	在学期間	☐ 卒業 ☐ 卒業見込み
	立	在学期間	☐ 卒業 ☐ 卒業見込み
	立	在学期間	☐ 卒業 ☐ 卒業見込み
	職歴	期間	☐ 現職 ☐ 離職
職歴	期間	☐ 現職 ☐ 離職	

フリガナ		本人との続柄
保護者氏名 (姓)	(名)	
保護者現住所 (上記の現住所と異なる場合のみ) 〒 -		
Tel: - -	Email: @	

出願時点でのパスポート所有 ☐ 有 ☐ 無	※パスポートを所有している場合は、パスポートの写真ページの鮮明なコピーを出願書類に必ず同封してください。
---	--

入学情報・留学に関するご相談・お問合せ

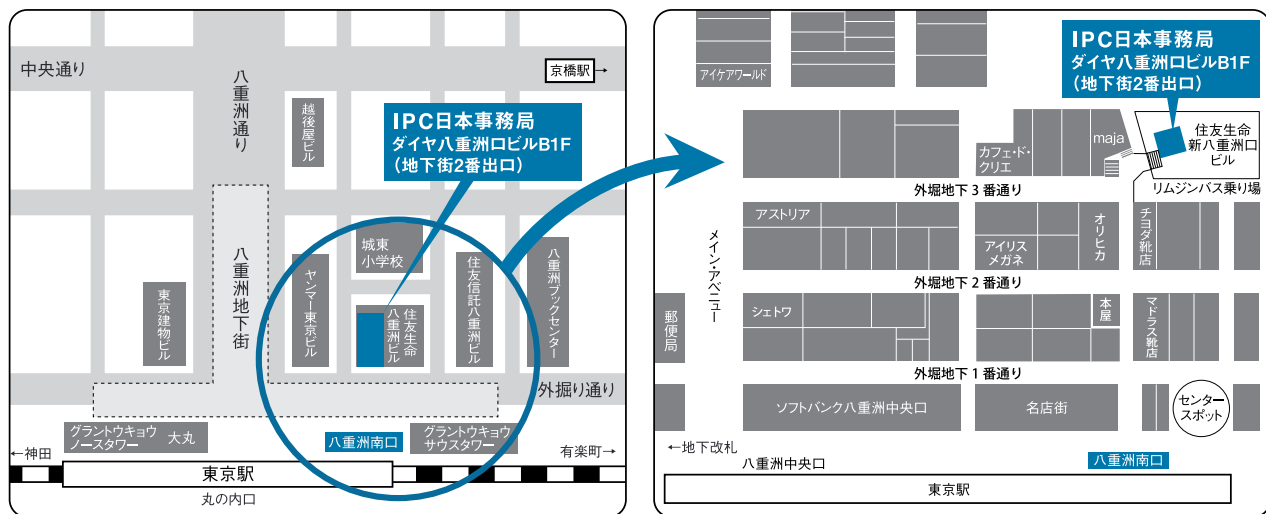
インターナショナル・パシフィック大学日本事務局

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 ダイヤ八重洲口ビルB1F
☎ 03-6202-0606 FAX: 03-3245-6300
担当: 田中 大樹 (タナカ ヒロキ) 本田 智也 (ホンダ トモヤ)

インターナショナル・パシフィック大学ニュージーランド事務局

IPC TERTIARY INSTITUTE
57 Aokautere Drive, Fitzherbert, Palmerston North 4410, New Zealand
☎ +64 6 354 0922 FAX: +64 6 354 0935
担当: リーブス・葉央 (ナオ)

Email: infoj@ipc.ac.nz
http://www.ipc-nz.ac.jp



インターナショナル・パシフィック大学日本事務局はJR東京駅八重洲南口から徒歩2分(八重洲地下街から2番出口を出てすぐ)。
八重洲地下街につながる、交通至便の場所にあります。

現在お持ちの英語力を示す資格や試験結果がありますか？		
☐ 有 ☐ 無 ※「ある」の場合は、下記に詳細を記入の上、証明書のコピーを添付してください。		
資格(試験)名	級数(点数) 級(点)	取得(受験)年月 年 月取得
資格(試験)名	級数(点数) 級(点)	取得(受験)年月 年 月取得

修学旅行や語学研修、家族旅行などを含め海外に滞在した経験があれば、いつ、どの国に滞在したのか記入してください。 <例：ニュージーランド、2014年3月、16才(高校2年)、2週間>			
渡航先(国名および地名)	渡航時期(年・月)	渡航時年齢	渡航期間

現時点で本学での専攻分野として、興味・関心のある分野を○で囲んでください。(複数可)			
☐ 国際関係	☐ 国際ビジネス	☐ 観光	☐ 言語研究
☐ 英語教授法	☐ 環境	☐ ビジネスコミュニケーション	☐ その他()

● 本学への志望動機について書いてください。

● 大学で学びたいこと、留学で得たいこと、将来の夢について書いてください。

● 取得している資格と取得年月、生徒会、クラブ活動、ボランティア活動、特技について書いてください。

推薦書

20 年 月 日

インターナショナル・パシフィック大学学長 殿

学校名

校長名



下記の生徒は20____年____月本校卒業／卒業見込みの者で、

貴学への進学に適する者と認め、推薦します。

(フリガナ)
生徒氏名

生年月日

19 年 月 日生



IPC Graduate Profile

You will grow in confidence, independence and ability to set your own goals.

You will contribute to the society in which you live.

You will be able to think critically and solve problems in creative ways.

You will gain in ability to access and evaluate information in a range of ways.

You will be curious and excited about learning.

You will have the ability to listen to others from different countries and to communicate cross-culturally and inter-culturally.

You will be able to use two or more languages accurately in a range of social settings, content areas, and in your work, at a high level of fluency.

You will be able to apply what you have learnt in various work-place situations.

本学が定める卒業生像

自信を持ち、精神的に独立しており、自分自身で目標設定ができる

社会の一員としてコミュニティに貢献ができる

分析的思考力を持ち、クリエイティブに問題を解決することができる

さまざまな方法で情報を入手し、分析・判断することができる

好奇心があり、強い学習意欲を持っている

他国出身の人々の話に耳を傾け、異文化コミュニケーションができる

さまざまな場面で2カ国以上の言語を正確に、高度なレベルで駆使できる

学んだこと、身に付いたことを実社会で実践することができる

IPC TERTIARY INSTITUTE
UNDERGRADUATE PROSPECTUS 2015

Published by
IPC Tertiary Institute
57 Aokautere Drive, Fitzherbert,
Palmerston North 4410, New Zealand
Copyright © 2014 IPC Tertiary Institute